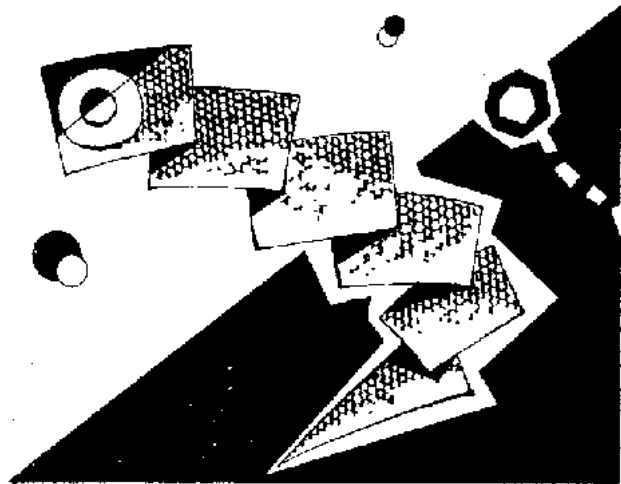


1 二二二 乾^{けん}

今こそ進むとき



上 宇宙 限りなき創造 父
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

見よ！ 宇宙は 創造の氣に満ちて
天翔ける竜の 住むところ
あらゆるものが 動きだし
広く 明るい 世界を創りだす
今こそ創造の時！

託宣の言葉

黒雲に乗って 竜が昇る
心正しければ 願ひごとは大いに通る

ジャッジメント

宇宙は 蒼黒い混沌の中に
創造の力を 秘めている その力は
空を舞う竜の群のように
たくましい 男の力だ
新たに輝く 太陽の下で
新しい秩序が生まれる
宇宙は父だ 変容の力だ 永遠の循環だ

日が昇り 日が沈み 星が輝く
宇宙の動きは いつも正確だ
この大自然の摂理のように
君が正しく 行動すれば
世の中に 不可能なことはない

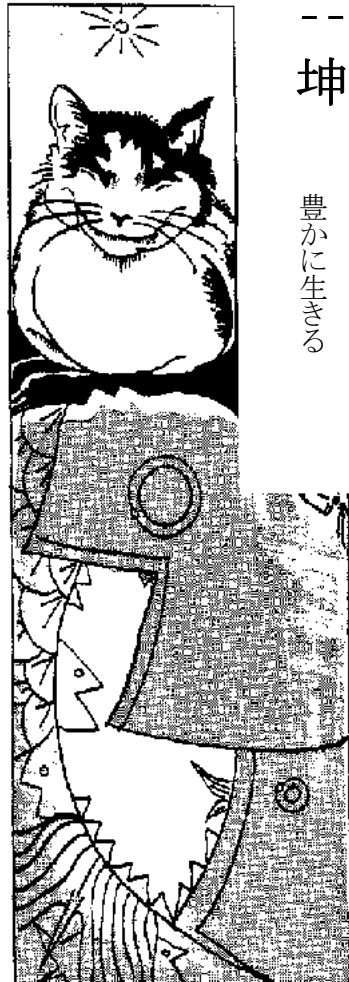
ライン

- ① 蒼黒い 淵の深みに
竜はまだ 静かに潜んでいる
今は動く時ではない
- ② 竜は 野に放たれた
隠れた賢人に 逢うがいい
その人は 今に世界を制覇する
一日中 努力して
- ③ 夜もまだ 反省をやめない
危険は迫っているが
きつと 切り抜けられる
翔び立とうとする 竜
- ④ あたりはまだ 薄暗く 夜明けは遠い
進退をきめる時ではない
地鳴りと共に 竜が昇る
王を求めて 騎士たちが行く
見えるだろうか あの勇ましい姿が
- ⑤

アドバイス

心の内も外も
黒雲を巻き起こして 空に昇る
竜の群のように 勇ましい
外の世界は 創造の氣に燃えている
君の心もそれに和して ふるい立つ
目を閉じて 耳をすまして 心に聞けば
竜に乗った騎士たちが
ごうごうと空を行く音が ひびくだろう
造化の神の仕事に 参加するために
翔べ！ 今こそ 君も空を行く
希望は 大いになう時だ

- ⑥ 今こそ 君も 翔び立つ時だ
昇りすぎた竜
君はそこから降りられない
慢心は危険 進めば後悔する
占って すべてのラインが当れば
群がる竜が空を舞い 頭を雲に隠す
強い態度で 人の上に立たないように
そうすれば すべてがうまくいく



上 大地 心からの受容 母
下 大地 心からの受容 母

イメージ

大地は すべてを包みこむ
この宇宙に たった一つの地球
そして たった一人の母
その力は やさしく 強く
すべてを生みだす 豊かな泉だ

託宣の言葉

勇ましい竜が 天に属するように
やさしい牝馬は 大地のもの
限りなく すこやかだ
宇宙の運行に従って
のびのびと 春の野を かけまわる
陰の方角である 西南に行けば
願いごとが通り 友が得られる しかし
陽の方角である 東北では
ただ 孤立するばかりだ
偉大な 母の心のように
やさしく 暖かく 人を受け入れれば
あらゆる事が まるくおさまる

ライン

① 霜が降り やがては水も凍る
いやまず影に追われて 日も暗い
陰の気がつもり 厳しい冬が来る
② 心正しく まじめに進めば
人にものを聞くことはない
自然に 人生の道が開かれる
才能を秘めて いつも正しくあれ
求められても 功を誇るな
③ 君の素質は いつかは認められる

願いごとは大いに通る
牝馬（ひんば）のように やさしく 賢く
おだやかに行動するがいい

自ら先を行けば迷い 人に従えば進む
東北に行けば友を失い
西南に行けば友を得る
静かに時を待てば いいことがある

ジャッジメント

地 水 火 風の四つの要素の
最初にあるのが 大地だ

④ 袋の口をくくったように
ものを言わずに 知恵を貯えよ
損も得も先のこと 今は語る時ではない
⑤ 黄色い衣裳は 母なる大地のもの
内なる輝きは 自ずからあらわれる
いいことばかり 願いごとが通る
⑥ 竜と竜が 野で戦う 流れる血の色は
大地の黄と真夜中の空の青
争えば ともに滅びる
◎ 占って すべてのラインが当れば
陰極まつて 陽となる
強く たくましく 生きよ

アドバイス

君は あらゆるものを 受け入れる
豊かな母なる 大地の心のように
やさしく 暖かく生きよ
先を争っても 得るものは何もない
人の上に立とうとすると 迷い
人のあとにつけば 賢者に出合う
あせることなく 自分の道を守ろう

上 水 底知れぬ深さ 二男
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

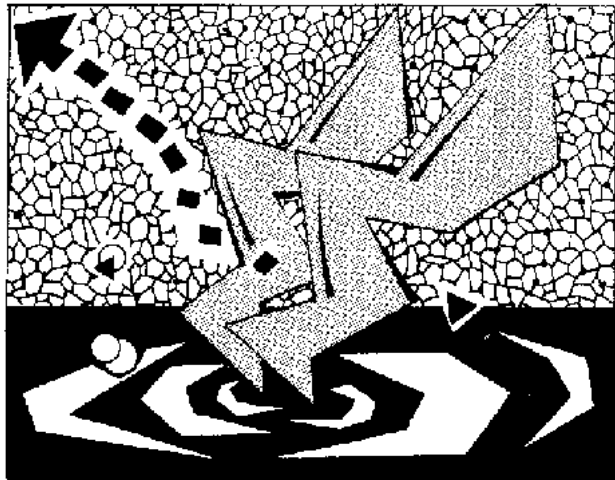
闇に雷鳴がとどろいて 稲妻が走る
混沌の中に 秩序が生まれる
すべて 最初は 困難が伴う
周囲は寒く 形も定まらないのに
外に出ようとする 芽ばえの苦しさ

託宣の言葉

願いごとは 大いに通る
心正しければ すべてうまくいく
しかし 先を急いではならない
ものごとを整理し 友だちをつくろう

ジャッジメント

外は まだ暗く 霧がたちこめ
眼前に 急流が渦巻く
あせって 事を急いではならない
危険を よく見えることだ
今は 友を集めて 未来に備える時



しかし 人に頼って 事の成り行きを
見ているだけでは 何も始まりはしない
自分のインスピレーションを信じよ
それに従って 自ら進んで動くことだ
こんがらがった 糸をほどくように
一方よりわけながら
一方では まとめよう
最初の努力を怠る者は 敗れる
初心を忘れなければ 願いはかなう

ライン

- ① 危険の前に ためらわざるを得ない
友を集め 行いを正し
謙虚に励んで 時を待とう
- ② 馬車が 思うように進まない
あっちによろよろ こっちによろよろ
突然 馬に乗った人があらわれる
君を襲うのではない 求めにきたのだ
しかし その誘いは まだ早い
十年待てば よい縁がある
鹿を追って 森に入るが
道案内がないので 迷うばかり
賢いものは 時と場所を選ぶ

- ④ そのまま進めば いいことはない
馬車をひく馬が 荒れ放題
このままでは 方向を見失う
意外なところに 君を求める人がいる
それに応じて 間違いはない
思うことが言えないうちに 邪魔が入る
小さいことなら なんとかやれるが
大きなことは まだ成就できない
- ⑤ 馬車と馬が 荒れ狂う
道を見失って 血の涙が出るばかり
もう あきらめるより他はない
すべて 最初から出直そう

アドバイス

目先がきかず 状況が読めない
心の外と内との 調和がとれなければ
あせるばかりで ことは成就しない
はやる心の 手綱をとって
落着いて ものごとを整理することだ
夢と現実の 区別もつかない時だから
誘われても 即決してはならない



上 山 内にこもる静けさ 二男
下 水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

山のふもとの泉から
こんこんと 水が湧き出す
春はまだ浅く 水は溢れて
大地の上を 若気の愚かさで 跳びはねる
どこまで水は 流れていくことや

託宣の言葉

若気の愚かさは 許される
愚かな若さを 求めるわけではないが
それが 私をとらえるのだ
最初の占いの答えは 与えられよう
しかし 二度 三度と占うことはできない
疑うものに 答えはない
いつも心正しく つつましくあれ

ジャッジメント

雪どけの 春の小川に 水が溢れ
道なき道を求めて 八方に散る

⑤ 現実をしつかり 見えることだ
子どものように 無心であれば
幸運に恵まれる 愚かであっても

⑥ 愚か者を 罰するのに
怒りにまかせて 叱ってはならない
行きすぎだけを とがめるように
自己規制も やりすぎでは 意味がない
刑罰は 調和を計るためにあるのだ

アドバイス

今の君は 山のように動かず
心ばかり 急流のように あせる
なにかを始めようとしても
どこから手をつけていいのか わからない
そんな時には 人生の道を知ることだ
賢者の家の門をたたいて 教えを乞おう
刑罰と規律で 溢れる力に枠を与え
若さを練り上げてこそ 成功する
自分の力と未来を信じて
迷うことなく一つの道を行こう

ライン

危険な穴だらけの 山あいの道を
障害をも押しのけて 流れ進む
もし 道を教える導師（グル）がいれば
多少の危険は 乗り越えられる
しかし 君はまだ
人生の道を問うための 礼儀を知らない
うるさく 助言を求めても
教えを与えられるのは一度だけ
導師の言葉を信じて あくまで謙虚に
一つ一つ困難を乗り越えることだ

① 若気の愚かさを 知らせるためには
厳しい規律も必要だ しかし
度を越しては ためにならない
愚かなものには やさしく教えることだ
弱いものは かばってやろう
そうすれば 幼いものも 立派に育つ
金に目がくらんで 男に身をまかせ
そんな女は 家に入られれない
この女は危険だ 行いを慎もう
いつまでも 若さに甘えて
夢ばかり 考えていてもダメだ



上 水 底知れぬ深さ 二男
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

天には 暗く雨雲が垂れ
決戦の時は 近づいている
水の中には 竜が潜む
今は静かに 動きをとめて
飲食に興じ 潮時を待とう

託宣の言葉

まごころがあつて 待つならば
成功のきざしが 見えるだろう
正しい行いは かならず報われる
大河を渡る時は近い

ジャッジメント

心に大望を抱くものは
今はじっと待つ時だ
秘めた想いを あらわして
新しい世界を開く 日は近い しかし
それはやさしいことではない

自分のすべてを賭けて 戦うことだ

決戦に備えて 力を貯え

今はただ 友と共に 静かな時を待とう

あたりの空気は水をほらみ

今にも 嵐が襲うだろう

前方に危険なわなが 見え隠れする

状況は 決して安全とはいえないが

運命に 勇敢に挑戦するものこそ

大河を渡り 最後の勝ちを得るものだ

友を招き 宴を開いて 楽しもう

危険を見つめて待つことのできる人は

真に勇気のある人だ

ライン

① 危険はまだ はるかに遠い しかし

なにかが起る予感がする

河から遠い 野で待つ時には

そのまま 静かにしていれば間違いない

② 大河の砂地で 決戦を挑む

小ぜり合いは あるかもしれないが

落着いて ゆっくりとチャンスを待て

③ 大河の泥中で 戦いを待つ

こちらから挑む場ではないが

④ 慎重に進めば 敗れることはない

危険な水に 足を踏みこむ

血の雨が降る合戦の最中でも

傷をこらえて 時を待てば

最後の勝利は得られる

⑤ 戦いの場にも ひと時の平和がある

盃をかたむけ 飲食を楽しもう

心正しければ 恐れることはない

⑥ 敵の本陣に近づき 穴に落ちる

招かないのに三人の客が来るが

彼らを敬まえば すべてはおさまる

アドバイス

前方には 危険な嵐が渦を巻き

大志を抱く君を 呑みこもうとしている

しかし 心は創造の気に満ちて

大事を決行する日の近いことを 告げる

父と息子は心を合わせて 決戦を挑み

大河を渡って 新しい天地を開くだろう

今はただ 来るべき日の成功を祈って

ゆつたりと 英気を養う時だ

上 宇宙 限りなき創造 父
下 水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

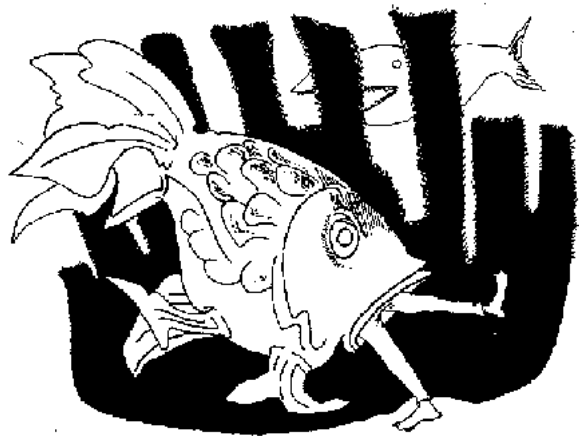
天は どこまでも 上昇を続け
水は あくまで 下に流れる
二つの力は はなればなれになって
争いに巻き込まれる
心をひきしめて かかろう

託宣の言葉

まごころだけでは ものごとは成就しない
そのまま進めば 災いがある
賢い人に問うのもよい しかし
大河を渡る時ではない

ジャッジメント

たとえ 自分が正しくても
争いに 巻き込まれることがある
それに気づいたら すぐに身を引き
力のある人に 助けを求めよう
強気で 無理に 押し進まないことだ



立場や考え方の違う者同士は
とかく 争いやすい しかし
同じ指紋を持つ人は 二人としないように
人の考えは 千差万別
人は人 自分は自分
それがわかれば お互いの立場を尊重し
争うことはないはずだ
自分のことのように 相手を理解すれば
和を計ることもできる
争いごとのある時には
大きなことは成就しない
どちらに本当の理があっても
このまま進めば 幸運には恵まれない
内と外の違いを知って
ものごとの 調和を計ることだ

ライン

- ① 争っても 勝ち目はない
あきらめの時を 知ることだ
問題は残っても 結果は悪くない
争いに負けて 逃げ帰る
ふるさとの村は 小さいが
潜んでいれば 罪をのがれられる

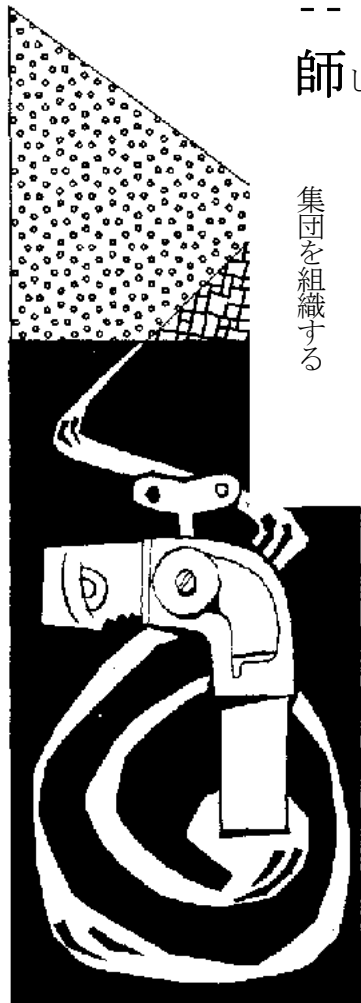
- ③ チャンスがあっても 力は発揮できない
外に出ようとしても 認められない
これまで通りに 心正しく
静かに暮らすのなら 最後に微笑が戻る
争っても 敗れる
運命に従って 心正しく 時を待てば
きつと いいことがある
⑤ 正しければ 争いに勝つ
裁きの庭には 公正な人がいる
理のあるものに 勝利は輝く
⑥ 争いに勝つても 長続きはしない
一時は 得意になっても
最後には すべてを失う

アドバイス

なにごとともよく知る 父のように
偉ぶった態度で 人に接しても
君の心は 迷いだらけで危険な状態
争う気もないのに 喧嘩に巻き込まれる
無益な争いは 人を小さくする
自尊心を棄てて 人との和を考える時だ

7 師し

集団を組織する



上 大地 心からの受容 母
下 水 底知れぬ深さ 一男

イメージ

大地の下に 水が流れる
地下水は隠れた さまざまな力だ
天命に従って 戦う時は
目に見えない人たちの力を集めて
集団を組織することだ

託宣の言葉

戦いが続く限り リーダーは
心の主の信頼と 人々の支持を得て
最後まで 責任を持たなければならぬ
それは 力では 得られない
リーダーの役割は 人々の心をとらえ
全員を奮い立たせることだ
戦いの目的を説明し 人々の労をいたわり
みんなが力を合わせるように努めてこそ
勝利は はじめて 頭上に輝く
武器をとり 戦うために集まる人も
終われば 散って それぞれの場に帰る
勝利に酔って
行きすぎた行為の ないように
リーダーは 最後まで 気を配ることだ
そうすれば すべてはうまくいく

ライン

- ① 集団を組織するには
正しく 公平な 規律がある
それがなければ 失敗に終わる
- ② リーダーは 集団の真中において
みんなと労苦を共にする そうすれば
心の主から 三度 嘗められる

悪をこらし 正しさをあらわすには
集団が求められる そして
それを率いる 賢者も要る

ジャッジメント

時には 悪をこらしめるために
人は戦わなければならない
それには 多くの人の力が必要だ
多くの人が集まれば
それを統率するリーダーが求められ
厳しい規律も 必要となる

- ③ リーダーに才能がなければ 彼は死に
みんなは 彼の遺骸をかついで帰る
いいことはない
- ④ 戦いに勝ち目がない そういう時には
退いても 恥ではない
鳥が森を出て 野を飛びまわる
敵が近いきざしだ
- ⑤ 戦って 敵を討つがいい しかし
賢いリーダーに まかせることだ
戦いに勝って 功に報いる時に
小ものに地位を授けてはいけな
きつと 後で間違いを起こす

アドバイス

大地のような豊かさで 心の扉を開こう
そこにはまだ多くの 隠された
未知の可能性が 潜んでいる
世の中の現実には 立ち向かう前に
精神を統一して 内なる世界を旅しよう
あるがままの自分を受け容れる心の広さ
を持つてこそ 初めて他人を受け容れられる



上 水 底知れぬ深さ 一勇
下 大地 心からの受容 母

イメージ

大地の上を 水が流れる
水は水を呼び一つになって
やがて 大洋に 流れ込む
みんなで 仲良く 手をつなぎ
新しい世界を切り開くのだ

託宣の言葉

みんなで手をつなげば いいことがある
君が本当に徳があり 正しいかどうか
もう一度 占ってみるがいい
疑い深く 心が落着かないものも
向こうから 寄ってくるだろう しかし
あまり遅れてくる人には つきがない

ジャッジメント

他の人と親しみ合うことが
今こそ 求められている時だ
お互いに助け合って団結すれば

すべてが うまくいく しかし

みんなで仲良く 暮すには
中心になる人が必要だ

君は その責任がとれるだろうか
正しく 強く 力があるだろうか
もう一度よく 心に聞いてみるがいい
人を集める柄でもないものが

先に立って 団結を計れば 混乱が起こる
もし 素質があつて 人と親しめば
ためらうものも 寄ってくる
友と語り 体験を分かち合うことは
なによりも貴重なことだ

遅れてくるものは

仲間入りすることは 許されない

ライン

① まごころを持つて 人に親しめば
うまくいかないわけではない
真実に溢れていれば

② 外から幸運が 舞い込む
自分から 進んで 人に親しむ
心正しければ いいことがある

③ 親しさを求めても 相手が悪ければ

結果も悪い 悲しいことだ

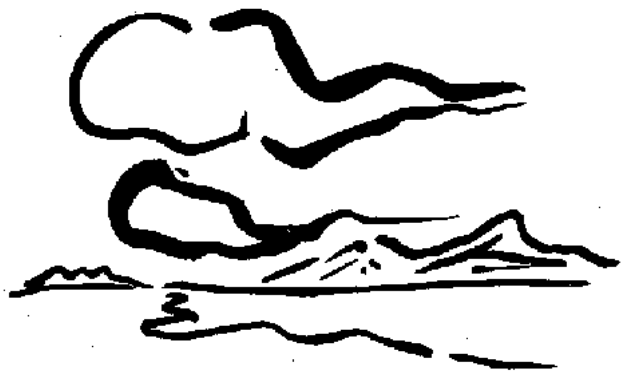
④ 外に向かつて 賢者と親しむ
心正しければ いいことがある
貴人が狩をする時には

⑤ 三方からのみ 獲ものを追う
前方はあけて 去るものは追わない
友をつくる時も 同じように
去るものは追わないでおこう

⑥ 今はまだ 人の上に立つ資格がない
自分自身を 鍛え上げることだ

アドバイス

君の心は 大地の母なるもののように
豊かに 人を受け容れる
形式を嫌い 誰とでも対等に つき合い
水が流れるように なめらかに
そして さわやかに 友をつくる
かなり危険な相手も いるかもしれないが
しっかりした自主性と 明確な態度で
誰でも 心広く 受け容れるなら
多くの人と親しむことができる



上 風 木 柔軟な優しさ 長女
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

大空を風が吹き抜けて
雲を集めて 雨をよぶ しかし
恵みの雨は まだ降らない
今はまだ 大事を成す時ではない
力を貯えて チャンスを待とう

託宣の言葉

願いごとは 少しはかなう
雨雲は低く垂れているが
雨が降るには まだ 間がある
西の方 故郷の空に 創造の気が渦巻くが
天地を結ぶ 雨には至らない

ジャッジメント

小さな力は 押え 馴らされ 自制した
暗い 影の世界が持つ力だ
風が雲をせきとめて
湧き上がる創造の力を 押えている

大望を持つ人は はやる心を押える時だ
想いがもつとつるまで
心の中に秘めて 力を貯えることだ
世の中に出るには まだ早い
柔軟な態度で 相手をかまし
秘かに 計画を練る時だ
周の文王は 捕われの身で
一人静かに イー・チンの言葉を書いた
故郷の周は 西にあたる陰の方角
そこから 風で黒雲が舞い昇るのを見た
しかしまだ 雨が降って 天地の間の
張りつめた緊張を解くには至らない
今は 進む時ではない

ライン

- ① 正しい道に沿って
自分の本来のあり方に戻るのに
どうして 悪いことがあるだろうか
- ② 進もうとする道に 障害があるなら
志を同じくする人と 手をつなぎ
本来の道に戻れば いいことがある
車の輪どめが 抜け落ちるように
つまらない争いで 力を無駄にする

- ④ 夫婦喧嘩のような 内輪もめでは
いつも強いものが勝つとは 限らない
まごころがあれば
心いたむことも 恐れることも消える
とがめられることはない
まごころをもつて 隣人に
手をさしのべれば
- ⑤ お互いに 助け合うことができる
小さな力を集めて 成功を手に入れた
しかし それは月の持つ影の力だ
満月に近い今の状態は やがては欠ける
今 成功に乗って動けば 危機に陥る

アドバイス

心には 大きな望みを抱いていても
態度は あくまで やさしくありたい
今はまだ 大事にとりかかる時ではない
無理して決行しても 成功はおぼつかない
春風のように やわらかく ふるまおう
周囲の人たちと 競い合わずに
時が熟すまで じっと我慢して待つのだ



上 宇宙 限りなき創造 父
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

青空を映す 瑠璃色の湖は
澄みわたる喜びに 輝いている
危険を冒して 進む時も
無邪気な心で 礼儀をわきまえ
素直に行動すれば 恐れることはない

託宣の言葉

虎の尾をふんでも 喰われない
思うことが 通る

ジャッジメント

虎のような 猛獣の後について行くのは
かなり危険な 道ではあるが
君の無邪気な「対応」は
百獣の王の心をも 和らげる
壮大な蒼い空の 姿を真似て
小さな湖が きらきらと輝く
こわい父親の 後について

かわいい末娘が 跳びはねながら行く
二人の心が 調和しているから
少々の出すぎは 許してもらえらるだろう
和の心は すばらしい美德だ
明るい心は 誰にも好かれる しかし
君の行為は まだ人真似だ
本当に 自分のものにはなっていない
いつも 上下の区別を心にとめ
礼儀正しさを 忘れないことだ
虎を怒らせたなら すべてを失う

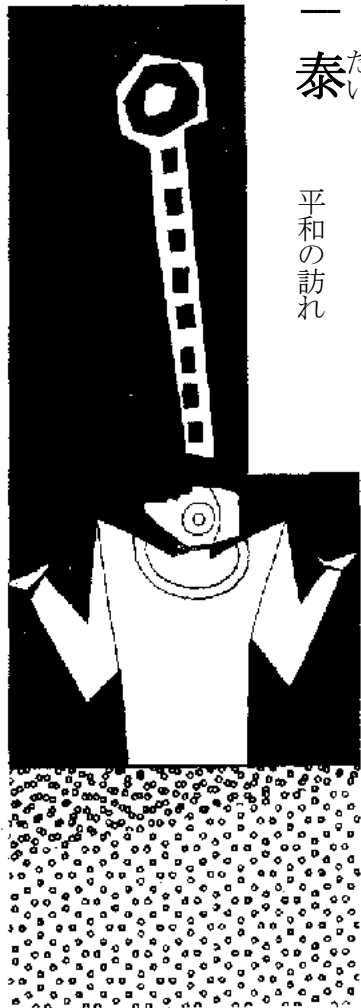
ライン

- ① 素直な行為は 好まれる
ひたすらに 自分の道を歩けば
間違ふことはない
- ② 一人静かに 道を行く
影が暗く 後を追う
まだ 自分の能力をあらわす時ではない
隠れていれば いいことがある
やっと片目が開いたばかり
足もまだ 片方しか動かない
それでも 歩けないことはないが
うっかり 虎の尾をふんでしまったら
- ③

アドバイス

君は天衣無縫！ こわいもののない人だ
なにごとをするにも こだわりがない
いつも 喜びに 輝いている
親にいつくしみ 育てられ
皆に好かれて 疑うことを知らない
しかし 周囲の人の助言はよく聞くことだ
ものごとの けじめを はっきりつけて
素直な 礼儀正しさを
忘れてはならない

- ④ とても 助かりそうにない
それは戦場でのみ 許されよう
虎の尾をふんでしまった！ しかし
おそろおそろ 慎重に進めば
最後には 幸運に恵まれる
⑤ ためらいもなしに ふむ
正しい行為であっても 危険である
もし これまでの行いがよければ
願いは満たされ 幸運に恵まれる
すべては 君の行為にかかっている
- ⑥



上 大地 心からの受容 母
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

時は春 あらゆるものが成長する
天は無限に広がり どこまでも高く
大地は 天を受けて ものを育む
大自然の摂理に従って 天地が和合し
平和が訪れ 願うことはかなう

託宣の言葉

ジャッジメント

大地は 天の精気を受け
天は 大地の心に感じて
美しいハーモニーを奏でる
それは 豊かな 春の調べだ
あらゆるものが 再び生まれ変わり
すべては 光と喜びに 輝く
君の心は 力強く 創造力に満ち

周囲の人々は それを迎えようとする
天性の素質を 十分にのばすことだ
それが 世に認められる
争いごとは すべて終わって
すべてのものが 調和する
君の才能を 祝福する声が
あたりに 満ち溢れて
天地が和合し
生命の讃歌が とどろきわたるのだ

ライン

① 思い切って 前進するときだ
しかし 自分の利だけを追えば 敗れる
同志と共に進めば 願いはかなう
② 他にやさしく 自分に厳しいものは
危険を冒しても 大河を渡る
寛容であつても 私情に溺れないことだ
中道を行けば いいことがある
③ 安泰は いつまでも続かない
秤(はかり)は 必ず上下する
上がって 下がないものはない
危険な時だが 心正しければ
心配することは なにもない

アドバイス

限りなき創造性を 内に秘めながら
あくまで やさしく 心広く
誰をも 差別なく 受けとめられる
君は 成熟した すばらしい人だ
世の中の あらゆる夢と幸福を
一身に集めることができる しかし
天の運行は一つ所にとどまらない
幸福に酔っている間に
時は移り変わる

④ 心から願えば 富はなくても同志は集まる
しかし 小人の結束に気をつけよう
⑤ 王女が臣下と結婚しても
謙虚に自分を捧げて 相手につくせば
幸いに恵まれ すばらしいことがある
⑥ 堀の土を積み上げてつくった城壁も
崩れ落ちて 堀を埋める
形あるものは いつかは壊れる
力で運命に抗してはならない
自分を守ることに 力をそそげ

上 宇宙 限りなき創造 父
下 大地 心からの受容 母



イメージ

どこまでも軽く高い空と 重く沈む大地は
互いに交わることがない
暗い影が 次第にあたりに 広がり
輝く太陽の光りを覆う このままでは
すべての道は 行きどまり

託宣の言葉

これは 人の道ではない
たとえ 心正しくても いいことはない
大きいものは去り 小さいものが来る

ジャッジメント

心正しく 生きてくても
今は 天地が味方しない
暗い影が 迫りつつある
世の中が乱れ 小人が跋扈する
人望のある人も 周囲の者から去られ
心は ますます塞ぐ

それでも自分を 表に出せば

心広き人も 追われる

太陽は中天を過ぎて

夕闇が あたりを包む

英雄もまた いつかは死ぬ運命にある

この非情のときに 心正しいものは

ただ 自分を守って 時を待つことだ

陰陽の気が 交わらなければ

あらゆるものの 成長は止まり

暗闇に 身を潜める

理にかなわないことが 世の中を

支配する時だ

うろたえることなく

天の時を 待つ強さを持つことだ

ライン

① 小人がより集まって 悪事をたくらむ

しかし 心を正せば

偉大な人を 慕うようになる

② 君が心狭き者なら 賢者に従えば

いいことがある

偉大な人の 道は極まるが

泰然と受けとめれば 心配はない

③ 悪事を企むものにも ためらいがある

ためらっているうちは 凶に至らない

④ 塞がっていた運に 光が当り始めた

時を得れば 思うことが通る

仲間と共に 恵みの雨に浴するだろう

⑤ 心正しき者には 運が開ける

ただし いかなる時にも

慢心は禁物だ

危機は 泰平のなかにこそ あるものだ

⑥ 不運極まれば 幸運に転じる

障害はとりのぞかれ 喜びが訪れる

アドバイス

限らない宇宙に向かって

心ははやっても

からだは 地球を離れられない

心の内と外とで葛藤が起こり

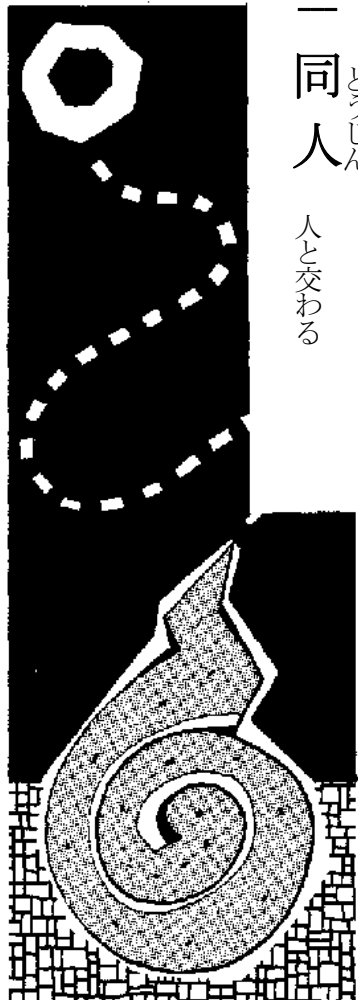
うつうつとして 考えることもできず

ものごとは すべて停止する

今は心を落ち着けて 自分を磨くことだ

チャンスは きつとくる

13 二二二 同人 どうじん
人と交わる



上 宇宙 限りなき創造 父
下 火 輝く明るさ 二女

イメージ

燃え上がる火は 煙となつて
はるかに高い 蒼空にとけこむ
天と火は 同じ志を持ち
同じ方向に舞い上がる
人の和が 新しい輪を開く

託宣の言葉

広々とした野に 人が集まり
願いごとが通る 今は 大河を渡る時
心正しいものは 得るものがある

ジャッジメント

広野には 火があかあかと 燃え上がり
紫煙が 空にたなびき やがて消える
同じ興味を持つものたちが
焚火を囲んで 集い合う それは
私的な会話を交す 場ではない
人類に共通な 喜びを わちち合うために

同じ考えを持つものたちの 集いだ
大河を渡る危険さえも
同じ気持で結ばれたものには こわくない
火が燃え上がって 宇宙にとけこめば
皆の心は 一つになる
中心にある 明るい火のように
すべてを見通す人がいる
ものごとを一つにまとめ
そして 整理する
外にあらわれた 力強さと
内なる光の輝きこそ
人の集いに 求められるものだ

ライン

- ① 門を出て 人とまじわる
家族のものの考えではなく
自分の考えで 人と交わるのに
これをとがめるものはいない
- ② 親族や縁者の間でのみ
人と交わるのは いいことではない
くさむらに 武器を隠し
高い丘に登って あたりを見渡す
人と交わるのに 疑いを抱くものは
- ③

- ④ 三年経つても なにもできない
垣根の上から あたりを見るが
自分の非を悟って
相手を攻撃するには至らない
- ⑤ 志の同じものが出合うのに
最初は泣き叫び 後では笑う
- ⑥ 国の外で 人と交わる
志し広く 後悔することはない

アドバイス

孔子の曰く、
「考え深い人生は あるいは曲がり あるいは直線を描く 沈黙に沈みこむことも 言葉が溢れだすこともある 二人の人が心の奥でまじわる時は 金属も断ち切るほど鋭く二人が心の底からわかり合えば その言葉は蘭の花が匂うように かぐわしい」

君の心は宇宙のように 外に開かれ
火のような 明るさを秘めている
疑うことなく 広い気持で人と交わろう

上 火 輝く明るさ 二女
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

宇宙を照らす 太陽の力は
あらゆるものに 生命を与える
光り輝き 燃え上がる火の玉
それは 善も悪も越えて 暖かく
人の生きる道（タオ）を 照らす

託宣の言葉

大きく持つことは すばらしい
大いに通る

ジャッジメント

宇宙は 限らない創造に向かい
燃えさかる火は 万物を照らして
暗闇に その存在を 浮き出させる
もののよく見える人は 誰とでも
明るく 虚心につきあう
人の世の善悪を よく知る人は
宇宙の運行を よみとって



いつも 正しい道を歩く

悪を嫌わず これをこらしめ

善を選ばず さらにこれを進める

善も悪も一つの楯の両面にあるもの

善が いつ悪に変わるかもしれない

悪もまた 善に変わりうるものだ

大自然の摂理に従って

あらゆることを 受けとめて

正しく ものごとを処理することだ

君が 心正しく 強くあれば

天は君に味方する

真昼の空の太陽のように

ものは皆 光り輝き

君の願いは きつとかなう

ライン

① 運勢は強い しかし幕は開いたばかり

才能あるものにも 慢心は禁物

自戒を忘れなければ 悪いことはない

② 大きい車に 荷物を乗せて行く

荷の重いことに耐えて 進めば

間違いはない

③ 自分の能力を尽くして 人に仕える

心の狭い者が これを真似れば

かえって 災難がふりかかる

④ 危機は 最も盛運のときに潜んでいる

謙虚に身を慎むものは 運を逃がさない

⑤ きどらない 穏やかな 行為の中に

自ずから 威厳が あらわれる

このような人は 豊かに生きる

⑥ 天の恵みを授かるとき

賢者は 満ちても溢れはしない

善悪を超越したものは

すべてのものを所有する

アドバイス

君は 中空にかかる 真昼の太陽のように

明るく 強く 正しい人だ

君の持つ すばらしい才能が認められ

世の中に 輝きでる ただし

幸運に 恵まれているときこそ

自分の溢れんばかりの力を 押えて

静かに 進め

君は今 強い運勢に乗っている

上 大地 心からの受容 母
下 山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

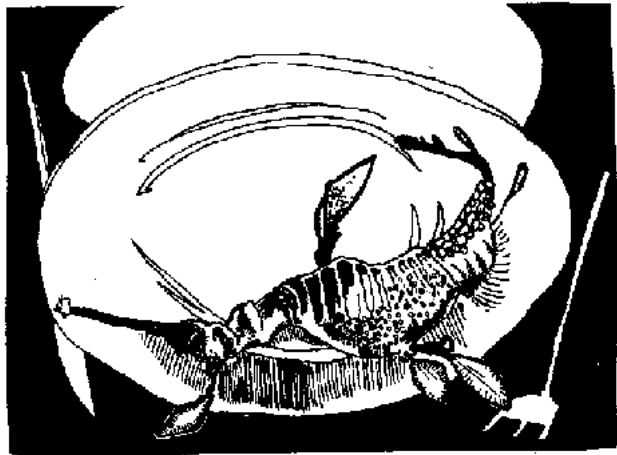
大地は 山のような気高さを秘めている
輝く太陽は 沈み 満月も 再び欠ける
心に思うことのある人は 運命を知り
気高く そして つつましく
自らの内に 静かに とどまる

託宣の言葉

謙虚であれば 通る
初めは悪くても 終わりにには運が開ける

ジャッジメント

宇宙の動きは 正しく 時をきざむ
今は 中天に輝く 太陽も
やがては 西の海に沈み
満ちたる月も 時が過ぎれば
暗い影に 犯される
地上の世界にも 盛衰がある
高山は水でけずられ



谷も いつかは 砂礫で埋まる

運命の鬼神は

おごりたかぶるものに 害を与え

つつましい人に 味方する

世間もまた 自分を誇る人を好まず

謙虚な人を愛する

高さと低さは お互いに

補い合って 完全となる

君がもし 内に誇るものがあるならば

外にはあくまで つつましく

ひたすら 謙虚であるがいい

謙虚な人は たとえ 地の底にあっても

その人格の高さによつて

誰からも敬まわれ

最後まで ことをやりとげる

ライン

① 控え目に ひたすら謙虚に進めば

大河を渡り 幸運に出会う

② つつましさが 自然と外に にじみ出る

心正しければ いいことがある

③ 苦勞は 自ら語らない

功績があつても 誇らない

最後には 功勞を認められる

④ 今の地位を 誇つてはならない

分に過ぎた ふるまいを慎めば

悪いことは 起こらない

⑤ 富あるところに 人は集まる

また 人徳ある人に 人は従う

従わないものは 力をもって征してよい

⑥ 謙虚な人は 集団を率いて戦い

自国を征覇する

自分自身を 収めるものは

真実の勝利を得る

アドバイス

心は静かに 山の如く動かず 落着いて

人を受け入れることができる

君は 謙虚な人である

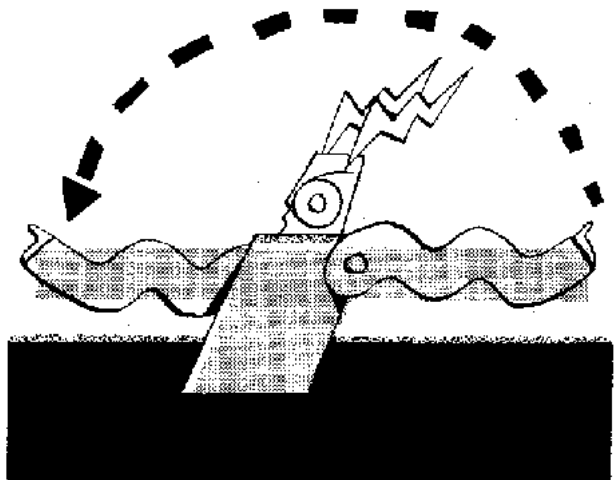
自らを誇らない つつましさは

人望を集め 大事をなすことができる

自分を人前に押し出すよりも

人を自分の中に 引き入れよう

自分を抑制できれば なにことも成就する



上 雷 荒れ狂う力 長男
下 大地 心からの受容 母

イメージ

春雷が 山野に とどろき
大地の上に ものの動く気配がする
厳しい冬は過ぎ去り
大自然は 再生の喜びに燃え上がる
古代の王は 音楽を作り 祖先を祭った

託宣の言葉

大きな喜びと共に 友を集め
荒れ狂う力に乗って決戦に挑む

ジャッジメント

燃え上がるような感激は
決して一時のものではない
心の中には しつかりと
自分の運命を読む 確かさがある
春の野に 立ちのぼる かげろうは
うつろい易い 幻覚ではない
それは 再び起こる 創造の

熱気を告げる 前兆だ

君の情熱は 豊かな心と共に

人々の信頼を得て 友を集めるだろう

大自然が 春の喜びに輝くように

君の心も 自然の摂理にかなっている

今は 大きな喜びと共に

人々を率いて 立上がる時

心の中から 自然に 歌声が生まれ

からだは 春のリズムに乗って揺れる

心の内にも 外にも

大自然の交響曲が ひびきわたる

古代の王は

この声なき声の新生のとどろきに

形を与え 音楽を奏でて 祖霊に捧げた

君の情熱は 姿なき人々の心から生まれ

異次元の力に 支えられているのだ

ライン

① 喜びすぎて 得意になる時ではない
よくないことが起こる

② 春の喜びに浮かれる人々の間で
ただ一人 自分の気持を 堅く守る
真実の 心の声に合わない時には

一日が過ぎないうちに 身を引く

心正しい人は いいことがある

人の顔色をうかがいながら

あちらこちらに へつらう人は

早く 態度を改めない 災いがある

ためらいなく 大きな喜びに輝く人は

すばらしいことを やりとげる

疑ってはいけない

君のまわりに 友が集まる

病気がちだが 死ぬには至らない

行いを慎み 情熱に溺れるな

⑥ 快楽に流されてはいけない しかし

態度を変えれば 災難はまぬがれる

アドバイス

荒れ狂う情熱のほとばしりも

心の中の 大地のような 豊かさ

すべてを包む やさしさに

つながとめられていれば 恐れはない

君は今 大地の底から 湧き上がる

歌声と共に 進む時だ



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

暗い淵の底に 潜む竜 春は遠い
今はじつと動かずに 時の流れに従う時
大きな仕事をなしとげようとするものは
まず 自らに従わねばならない
今は休息の時 自分の心を養う時

託宣の言葉

心正しければ 大いに通る
そのままであれば 間違いはない

ジャッジメント

冬には雷も鳴りを潜め
竜は湖の中に潜んで 時を待つ
日中は 澄み渡る喜びに 輝いて
明るく仕事にはげむ人も
日が暮れて 夜に入れば 休息し
無意識の世界の 夢にまどろむ
昼と夜とのリズムに乗って

宇宙の動きに 素直に従える人は

自分の心に従う人である

人も自分も 世の中の流れも

お互いに 喜んで従い合えば

ものごとは すべて成就する

賢く そして 正しくあれ

心の声を知らず

時の流れを読めないものは

宇宙の秩序にそむき 自分を裏切る

世間の人にも従えない

じつと 自分を見つめて 時を待とう

今は 自分の中にこもる時

休息をとり 心を養うがいい

ライン

① まわりの情勢が 変わりつつある

門を出て 遠くから離れて全体を見よう

心正しければ いいことがある

② 劣った人に かかずらわって

優れた人を見逃す 目先の利を追うな

③ 優れた人に従い 劣った人を棄てる

相手に従って 得るところは多いが

正しい心を 曲げてはいけない

④ 人に従えば 得るところはあるが

実力がありすぎて かえって疑われる

しかし まごころを持って 道を行けば

すべては明らかとなり とがめられない

⑤ いいものに まごころをつくせば

悪かろうはずはない

⑥ 互いにしり合い つながれる

従うことも ここまでくれば

もう離れることはない まごころを持ち

神に仕えるように 従おう

アドバイス

心の中に荒れ狂う情熱を秘めながら

山の静かな湖のように

おだやかに ふるまおう

今はまだ 表立って 動く時ではない

一歩下がって 人に従うべきだ

真昼のざわめきを避けて

じつと心の声を聞くのもいいだろう

しっかりと心を 見つめ

いつも喜びを抱いて 生きよう



上 山 内にこもる静けさ 三男
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

高山の麓に 風が吹きすさみ
作物を荒らし 落葉を散らす
ものは皆 朽ち果てて 終わりに近い
今こそ 心ある人は 立ち上がり
ことを興すべき 時である

託宣の言葉

思うことが 大いに通る
大河を渡るのによい時だ
その日に先立つこと 三日
そして 遅れること また三日

ジャズジメント

きらびやかな城も 賑やかな町も
いつかは崩れ 忘れられるが
知らない間に また人が集まり
城も 町も 再建される
人間が作ったものである限り

永遠に続くことはない しかし
人間が生きている限り
再び ものの形は作られる
大自然の動きと 人の営みに終わりはない
秩序が乱れ ものが崩壊した後は
思い切った再建に着手できる
大きな冒険を試みるのもいい しかし
同じ誤りを 繰り返してはならない
再建の時を 誤ってはならない
心の底から 決断の力が湧き起こり
あたりの情勢が はつきりと見えるまで
ゆつくりと時間をとって 考えよう
仕事が始まった後も 同じように
時間をかけて 経過を見守ろう
人々の意見に耳を傾け
慎重に 行動することだ

ライン

① 父が壊したものを 子がつくろう
後を継ぐものがあれば 間違いはない
危機感を失わなければ 結果はいい
母が壊したものを 作り直す
② 正しさのみを主張してはいけない

やさしい 柔軟な態度で 再建しよう
③ 父が壊したものを つくろうが
行き過ぎて 後悔することがある
しかし 父を尊重する気持と
正しさがあれば 大きな間違いはない
④ 父の失敗を 広い心で許す
寛容であればあるほど 後悔を招く
父の壊したものを 正す
⑤ 子の力は弱い 強い助力を得れば
復興し 名声を得る
人々に仕えずに 自分の目標を持つ
⑥ 強い意志で 最後までやりとげる

アドバイス

君は外からは 落着いて見えても
心の中は 優柔不断だ
もつと しつかりしなければ
規律が乱れ ものが進まない
今は 心を入れかえて 立上がる時だ
乱れた生活を 再建し
新しい道を 開くのだ



上 大地 心からの受容 母
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

湖の岸辺に 静かに たたずんで
青く澄み渡る 水の深さを思う
緑の草原は 水ぎわまで続き
湖水の色と 不思議な調和を奏でる
大地は 心から 近づく春を祝う

託宣の言葉

願いごとは 大いに通る
心正しく行動せよ 八月には災難がある

ジャッジメント

湖を見下ろす 丘の上に立てば
枯草の下に 緑が萌えだし
大地は 春の訪れを やさしく迎える
心は幼い喜びに満ちて
母の胸に 再び帰ろうとする
長かった冬も 終わりに近く
あたりには 春の気配が 満ち溢れる

雪どけの 水かさを増した湖は
まだ淡い 春の陽光を受けて
緑の岸辺に とどくばかりだ
冬至を過ぎれば
陽光は 日毎に強く 盛んになる
君の運勢も 日ざしと共に のび
心正しく 身を保てば
あらゆる願いがかなうだろう しかし
やがて 八月を過ぎれば 日ざしも弱まり
また 厳しい冬がやってくる
春の喜びを忘れてはならない
春のやさしい 大地のように いつも
心広く 喜びを持って 人々に近づく

ライン

- ① 心を正して 人に摸すれば
喜びを 分かち合うことができる
- ② 強い意志と 中道の心で進む
相手の心が動けば 願いはかなう
- ③ 甘い言葉を武器に 近づく
相手をだます 偽りの行為だ
しかし 自分から 悔い改めれば
責めは受けない

アドバイス

いつも楽しそうにしている君は
本当はかなり慎重で 受身な人だ
目上の人や年長者に 甘えて
まだ 世間の厳しさも知らずに
のんびりと 明るく暮らしている
今はそんな君を 誰もとがめはしない
どこに行っても かわいがられて
問題はないだろう しかし
いつまでもそれは続きはしない
他人に頼らずに 自分の道を築こう

- ④ 心正しく 力を持つものが
君に従う 能力のあるものに
任せるなら 間違いはない
- ⑤ 偉大な人は 自ら動くのを控え
人に力を 発揮させる
すべてに いいことがある
君に従うものが 力強く昇ってくる
豊かな心で 迎えれば
いいことはあっても 間違いはない



上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 大地 心からの受容 母

イメージ

しなやかに しかも 力強く
風が 大地のすみずみまで 吹き渡る
空を行く風は 心の奥まで しみ通り
人々に 仰ぎ見られる
観想の時 あらゆる姿が 眼前に浮かぶ

託宣の言葉

手を洗い 身を清めて
犠牲を捧げる前のひと時
人々は 息をとめて
その姿を 見上げる

ジャッジメント

風にひらひらと 旗がひらめき
祭司は 神前で 観想のひと時を持つ
静けさの中に 人々の眼は
神秘的な その姿を 仰ぎ見る
昔 中国の天子は 天の運行に従い

季節毎に 四方の民を訪れて
政治(まつりごと)を行なった
風が地上を吹くように
天の教えは 人々の心に 行き渡る
空を仰いで 宇宙の動きを見るように
ひと時の瞑想の中で
自分の心と向き合えば
さまざまなイメージの 饗宴が
心の底から 湧き上がる
大自然が 自由に しかも
正確に動くように
心もまた 自由に そして正確に
千変万化して とまることを知らない
見るものは 外のものだけではない
心の中も おごそかに仰ぎ見よう

ライン

① 子どものような 幼い見方は
子どもなら 許される しかし
大人は 面目を失う
② 戸のすき聞から のぞき見る
女であれば 間違っではないないが
男がそうすれば 得るものも失う

③ 一生の進退を決めるのに
自分自身を よく見る人は
道を外すことはない
④ 社会のあり方を よく見る人は
国に仕え 人々に仕える場に
迎えられる
⑤ 自分自身を よく見る人は
心正しければ 間違いはない
自分を離れて
人の生きる道(タオ)を よく見る人は
世間を超越していても 緊張は忘れない

アドバイス

やさしく しかも温かい君は
誰にも尊敬され 愛される
しかし 人に気に入られるだけが
人生ではない もっと 自分の気持を
しっかりと持ち 自信を養うべきだ
他人の顔色ばかり見てはいけない
自分の心の中も のぞいてみるといい
そして 新しい自己を確立するのだ

上火 輝く明るさ 二女
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

稲妻が一瞬 暗闇を照らし
竜が大空に舞い昇る
光と音が重なって あたりをふるわす
口の中に 邪魔ものがある時には
噛みくだくより他はない

託宣の言葉

思うことが 通る
規律に照らして 罪を裁くという

ジャッジメント

闇夜にきらめく光は
五穀の実りを告げる 稲妻だ
天の光に導かれて 地上の竜が舞い昇る
大空の下に 閃光がひらめき 雷が鳴る
柔と剛 明と暗とが 噛み合って
新しい創造を 生みだす
これを邪魔するものには



厳しい刑罰を課すべきだ
心正しい人々は 手を取り合って
邪悪な力を 噛みくだく
稲妻の光のように 力強く決断し
雷のとどろきのように 威厳を持って
悪を罰し 正しく導く
自分の心の中で 明確でないもの
厳しくないものを まず噛みくだくことだ
人間の本来のあり方を邪魔するものは
速やかに 確かな刑罰を課することだ

ライン

- ① 足かせをはめて 悪を罰する
足は傷つくが 間違いはない
- ② 肉を噛むように 罰を下す
鼻がめりこむほど 強く噛んでも
とがめられはしない
- ③ 古い干した肉を噛んで 毒にあたる
多少の 面目を失っても
気にするほどのことはない
- ④ 固い骨つきの肉を噛んで
中から金属の矢を見出す
刑罰を課すことは 困難な道だが

アドバイス

- ⑤ 心正しければ いいことがある
干した肉を噛んで 黄金にあたる
心正しく よく反省するものは
刑罰を与えることで 幸運を得る
悪いことは起こらない
かせをかついで 耳がつぶれる 凶
言うことを聞かないものは
首かせを背負わされて
耳をつぶすほどの罰を受ける
いつまでも そのままでは災難に遇う
- ⑥

明るく ものわかりがよく
すべてに目が行きとどく君は
他人に対して 厳しすぎる傾向がある
しかし こだわりのない
さっぱりした性格だ
なにごとくも やりすぎないように
注意して行動すれば 間違いはない
他人に厳しくする前に 自分自身を
よく見詰め 自分に厳しくあるべきだ



上山 内にこもる静けさ 三男
下火 輝く明るさ 二女

イメージ

山の麓に 野火が燃える
輝く野火の飾りをつけたように
山は明るく きわだつ
大自然が 自らを飾る美しさ しかし
山あいの火は 遠くからは見えない

託宣の言葉

思うことは通る
小さなことなら 進んでやるといい

ジャッジメント

ふと見た あの日の 山旅の
麓の草原を焼く 野火の輝きは美しかった
暗くなりかけた あたりを
ちらちらと照らし
燃えては消える 火の広がり
心に秘めた情熱も
今はまだ 燃え上がる時を得ていない

野火のように 山あいから
見え隠れする
知る人ぞ知る 君の才能は
山のような大きさがある
小さなことなら 願いはかなう
しかし 大きなことに
乗り出してはいけない
今は まだ 自分を押えて
静かに 時を待つことだ
人に知られることなく 秘かに
こつこつと 形を整える時だ

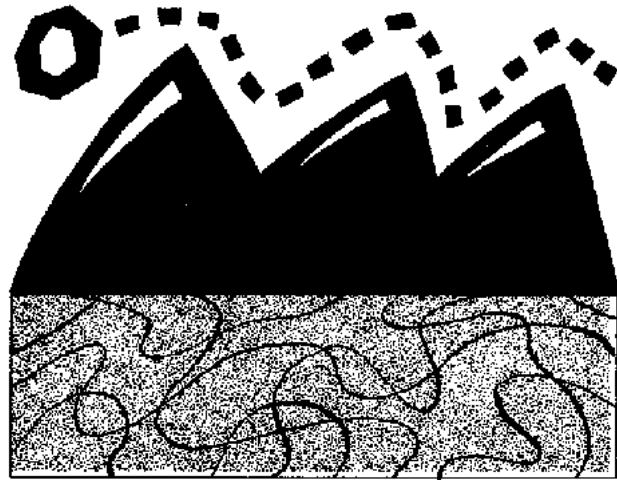
ライン

- ① 足を飾る
人の道を わきまえた人は
身にあまる富よりも 清貧に甘んじ
車には乗らず 自分の足で堅実に歩む
- ② あごひげを飾る
ひげは口と共に 動く
近くにいる 実力者に従うといい
優雅に身を飾る
- ③ 今の生活は 居心地がいい
しかし真の喜びにはならない

アドバイス

- ④ 虚飾に溺れることなく
真実を求めれば いいことがある
優雅と素朴さのどちらを選ぶか？
しかし たとえ身を飾れなくも
節操を貫けば 間違いはない
儉約しすぎて 礼が粗末になる
しかし 虚飾であるよりはいい
陰口を言われても 結果は悪くない
- ⑤ 真白な美しさ
虚飾を棄てて 本来の自分に戻る
そうすれば 問題はない

君の心は 情熱に燃えている しかし
人々は 君を認めない
事を急いで 飾りたてても
飾りは 飾りでしかない
心にゆとりをもつて 実力をつける時だ
いつの日か 君の努力が
山全体が 燃え上がるように
美しく 花開くだろう



山 内にこもる静けさ 三男
大地 心からの受容 母

イメージ

地をはうような 低い山
山頂が けずりとられて のびられない
ごつごつと 山はだは荒れ 斜面は狭い
この山に登っても いいことはない
今は静かに 時を待つばかり

託宣の言葉

なにをしても うまくいかない

ジャッジメント

山は 空高く そびえてこそ
本当に山らしい
人もまた 心広く 気高くあつてこそ
生甲斐のある人生が開ける
母なる大地に しがみついたまま
つまらない人々に もまれて暮しても
なにことも 成就できない
あちらこちらを はぎとられ

ますます やせ細るばかりだ
自分の心を かえりみて
誇りと自信を 育てるべきだ
二本の足で 大地を踏みしめ
もう一度 自分で立つことを考えよう
いつまでも 人に頭を下げ
親や他人に頼っていても
本当に やりたいことは なにもできない
自分のむなしさを 棚にあげて
周囲の人を恨むのは よそう
今は行動する時ではない
寝ている場を はぎとられる前に
自分自身を しつかりと見つめて
自分の心を養うことだ

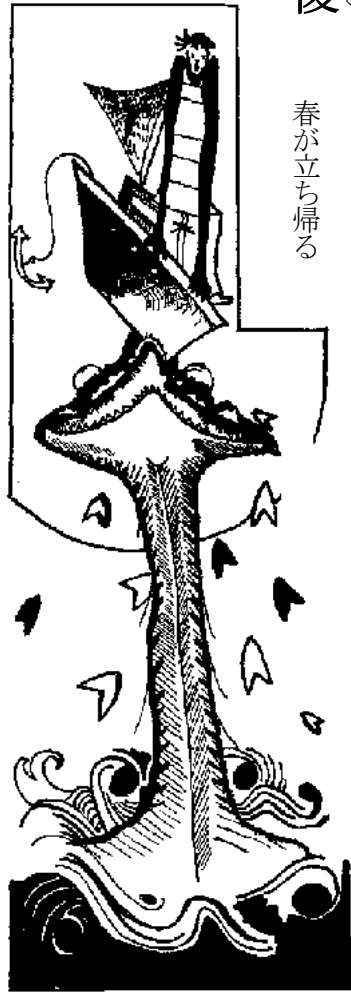
ライン

- ① 寝台（ベッド）の足を はがれる
心正しいものが 侵略される 凶
- ② 寝台のわくを はずされる
心正しいものは ますます犯される 凶
- ③ わが身を 寝台からはぎとって
しつかりと 心を定めよう
そうすれば 間違いはない

- ④ 寝台がこわれて
自分の身まで はがれる 凶
早く逃げだしないと 身も心もはがれる
目刺しのいわしのように
心をそろえて 人に従えば
かわいがられて 願いがかなう
あらゆるものが はぎとられても
大きな果物が まだ一つ
食べられずに 残っている
優れたものは 車で迎えられ
つまらない人は 家まではがれる

アドバイス

母なる大地の手に 握られていては
優れた末息子も のびられない
いつも家にいて 動こうとしない
自分の足で 立とうとしなければ
しまいいは 寝台はおろか
身まで はがれる
君は才能を持ちながら寝たままだ
二本の足で しつかりと立つことだ



上 大地 心からの受容 母
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

大地の下から伝わる かすかな動き
冬至をすぎれば 外は寒くても
地下に埋もれた 種はふくらむ
一陽来復 厳しい冬の最中でも
春の気配が 静かに戻る

託宣の言葉

厳しい冬に襲われても
再び 春はめぐってくる
万物はみな 生々流転を繰り返す
心臓の鼓動のように
心の底から 湧き上がる
生命の流れのひびきを聞こう
あらゆるものが もとに戻る時
暗闇の中に 新しい生命が誕生する
君のチャンスは 遠くない
無理をせず 自然の流れに従って
喜びと共に 動くのだ
旅人をひきとめ 人々を集めて
来るべき 春の祝いの祭典の
準備に力をそそぐ時だ

ライン

- ① 間違いがあっても すぐ戻るように
遠くにはいかない そうすれば
後悔することもなく 幸運に恵まれる
- ② 速やかに戻れば いいことがある
よい仲間と相談しよう
- ③ 何度も戻る 危険な時に決断力がない
しかし 用心して戻れば 間違いはない

ねがいがかたう 自然にものごとが変わり
人が集まって いいことがある
旅に出ても 七日で戻る
積極的に ことを始めよう

ジャッジメント

古いものが去って 新しいものが来る
大自然の動きは 絶え間なく続き
運命が 入れ変わる
メリー・ゴランダの動きのように
春が過ぎ 夏が終わって

- ④ 小人が群れて進む途中一人で戻る
まだ ものごとを始めるには早い
一人でも 途中から戻ろう
- ⑤ 小さなことに こだわらずに
戻るべき時には いさぎよく退こう
誤りを自ら認めて 引き下がれば
後で後悔することはない
- ⑥ 戻る時を誤れば 凶
外からも 内からも 災いがある
これで決戦にのぞめば
必ず負けて 人々に迷惑をかける
十年経っても 立ち上がれない

アドバイス

人の意見を 心から受け入れて
将来の発展に備える時だ
まわりのものの動きよりも
自分の心の声を聞こう
君のチャンスは そこまできているが
今はまだ 自分を主張する時ではない
一から出直すつもりで 時を待つのだ



上 宇宙 限りなき創造 父
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

稲妻が 雲に映えて
広大な天に 雷鳴がとどろく
大自然の力はとどまることを知らない
天地は 素朴な力と 喜びに満ち
限らない 創造の力を生む

託宣の言葉

心正しければ 大いに通る しかし
術策を弄する人は なにをしても無駄だ

ジャッジメント

銀河宇宙が どこまでも
無限の彼方に 広がりとつあるように
君の才能は 今 開かれて
宇宙の動きと共に 八方に散る
素朴に 無節気に 自分を信じ
雷鳴のとどろきに乘つて 空を舞おう
疑いを棄てて 無心になった時に

天の摂理が 心の中ではたらいて

あらゆる才能が 動きだす
どんな人にも 生まれつきの
大きな天の働きがある

それを自然に 使うことだ しかし
小さな利益に こだわって
小細工を弄しても うまくいかない
卑屈になるのは よそう

いつでも 素直に 自然に
心のおもむくまま

自分の力を 使いきるので
そうすれば この宇宙に

君の才能が きらめいて
雷鳴と共に 新しい世界を開くだろう

ライン

① 素直で 素朴に ふるまえば
どこにあっても 成功する

② 利益のために 開墾せず
収獲のために 耕やさなければ
何をやっても いいことがあり

③ 予期せぬ幸運が 舞い込む
つないである牛を 誰かが引いていけば

近くににいる者に 嫌疑がかかる
罪はなくとも 災難に遇う

④ 心に偽りなき者にも 不運はやってくる
誠の心と素朴さが あるのなら
今まで通りに 生きること
固守することだ

⑤ 罪もないのに 出遇った災難は
放っておいても もとに戻る
自然の流れに 身をまかすがいい

⑥ 無理して進めば 災いがある
心に偽りがなくても
運命の流れには 勝てない

アドバイス

心の中から湧き上がる力は
宇宙に開かれた 動きと共に
無限の創造に向かつて つき進む
疑うこともなく 策略もなしに
無心に進めば 成功する
雷鳴のように ためらいもなく
この宇宙を駆けめぐるのだ

上山 内にこもる静けさ 三男
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

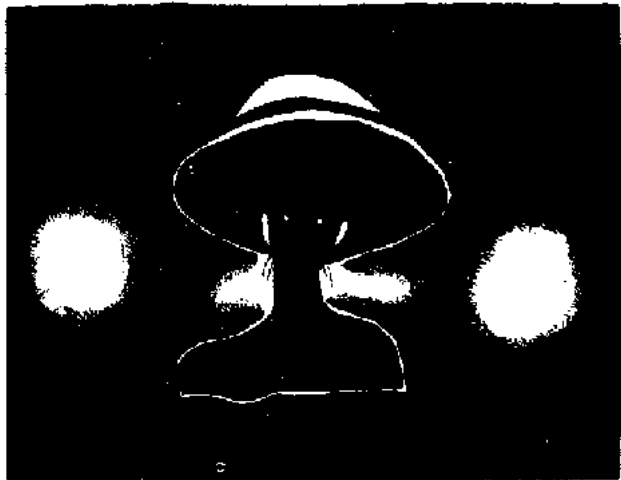
静かな山は その中に
宇宙の歴史を秘めている
山は 自分では語らないが
人類の歴史を知っている
沈黙の中にこそ 豊かな知識がつもる

託宣の言葉

心正しければ 人に仕えるといい
大河を渡る時である

ジャッジメント

山のように 静かな人は
大きな宝を持つ人だ
やたらに 才能をひけらかして
自分の力を 無駄にしたりはしない
しっかりと精神を引きしめて
心に秘められた宝を探すのだ
山の中に 隠された宝物は



インナー・スペースの 輝きだ

宇宙の創成と共に生まれた

金やダイヤモンドの 鉱脈は

見知らぬ過去の プレゼントだ

一人一人の心の中には

全人類の知識の集積と

宇宙の神秘が 隠されているのだ

山中に秘められた もう一つの宇宙に

意識の光が きらめく時

新しい内なる世界が 浮かび上がり

心の中の賢者が ほほえむ

家を出て 人に仕えることは

心の中の賢者に仕えることだ

大河を渡って

インナー・スペースの旅に出よう

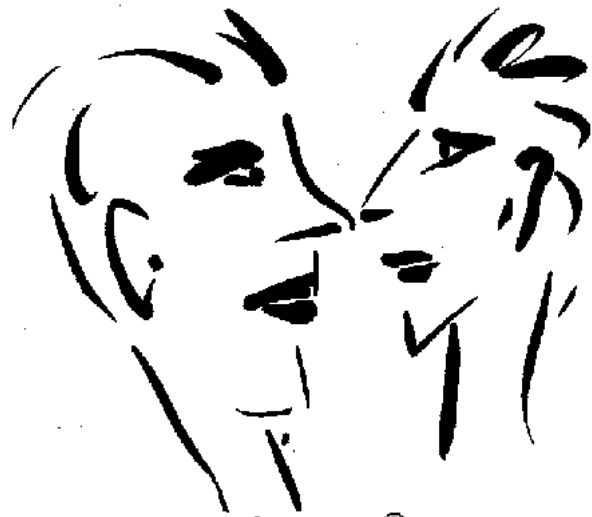
ライン

- ① 進めば 危険が待っている
考え直したほうがいい
- ② 車軸がはずれる 車から降りて
進めば 道に迷わず幸運がくる
- ③ 良馬が疾走してしまった
危険を察知して 心正しく自戒しよう

- ④ 車を守り 人々を訓練する
注意して進めば 間違いはない
子牛のうちに 横木を当てる
悪の芽ばえも 小さいうちに
つみとれば いいことがある
- ⑤ 悪を正しても 直らない
悪の原因を探り それを根絶してこそ
いいことが訪れる
⑥ 宇宙に向かう道を得る
心の中の宝が 輝きだして
ものごとが 成就する

アドバイス

心の中に すばらしい創造性を秘めて
山のように 静かに ふるまおう
多くを持てる人は 少なく語る人だ
内向的な三男は 父親の力に支えられて
自分を守り 隠された才能を 育てる
秘めた創造性は いつか輝き
偉い人に 認められて
大きな仕事を 成しとげるだろう



上 山 内にこもる静けさ 三男
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

山の麓に 雷鳴がとどろき
あらゆるものが 芽を吹き
山野が いっせいに 奮い立つ
今は 自分を養う時
そしてまた 人を養う時だ

託宣の言葉

心正しければ いいことがある
養うものを見る 自分自身も養う

ジャッジメント

上下を 二つの陽に囲まれた形は
口を開けた姿だ
口に入れるものが 正しければ
間違いはない
日頃の 自分の目標と その手段とを
よく考えてみる時だ
どちらかを 誤れば

努力しても 実りがない

人には それぞれ

生れついでに 素質がある

自分の何たるかを 知らない人は

やたらに 人を真似たがる

つまらないことに 時間を費し

大事なことを 忘れるのは愚かなことだ

自分の長所を養う人は

優れた人になる

自分の欠点を 助長させる人は

つまらない人になる

賢い人は新しいことに とびつく前に

自分の素質を よく考える

言葉を慎み 飲食を節制し

まず 自分自身を 見つめ直す

ライン

① すばらしい素質を持つ人が

自分を見失って他を真似たがる

これでは 幸運も逃げてしまう

② 衣食のために大望を棄てるのは

さかさまの 行為だ

偉い人にとり入って 食べようとする

そのまま続ければ 災いに遇う

③ 自分の欲から 悪事に染まる

考え方が間違っているれば

心正しいと思っても 災いとなる

十年間は動かずに 身を慎め 凶

④ 身を養うために 大望を棄てる

目を光らせて 機会を待ったためなら

それも 悪いことではない

⑤ 常識をはずれていても

心正しければ いいことがある

しかし 大河を渡る時ではない

⑥ すべての人を養うものは

養うことの危険を 忘れてはならない

そうすれば 大河を渡りきれる

アドバイス

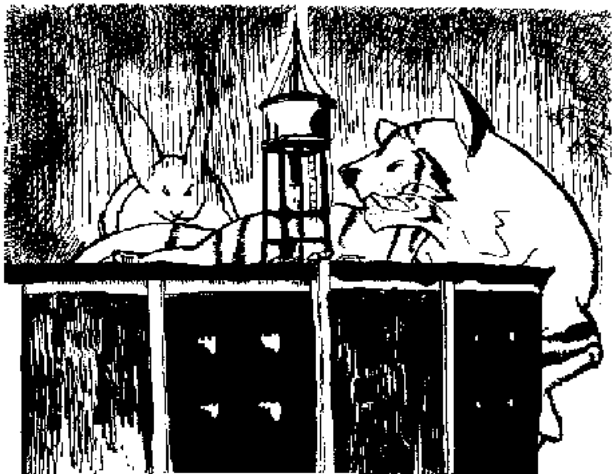
心の奥から創造力が湧き上がるのに

山のように 静かで動かない

力を中心に集めて 自分を養う時だ

自分の才能や素質を よく見極めるのだ

自分自身を知ってこそ 人をも養える



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

台風一過 湖の水が溢れる
空はあくまで 青く澄み
溢れた水が 芝地や木々を覆う
ひとり 我が道を行くものは
過ぎた行為を 恐れない

託宣の言葉

過度の重さで 横木がしない
屋根は 今にも落ちそうだ それでも
ものごとは成就し 願いがかなう

ジャッジメント

どこからともなく 力が集まって
台風のように 吹き荒れる
湖の水は溢れ 屋根の横木がしなっても
とどまることなく 動きまわる
今は危険な時だ
予想外の 高い所にのぼりつめ

大きな責任が 肩にかかっている
君には やりとげる自信がない
もし 素直な心で 道を進めば
行き過ぎた あやまちも 許されて
必ず 願いはかなう
風に乗って

四方に吹き荒れるがいい
嵐の後の すがすがしい朝は
大きな危険の後にくる
しかし 徳も力もないものが
嵐と共に 暴れまわれば
後には悲しみが 残るばかりだ
家は傾き すべてを失う
自信過剰にならないことだ
ひとり 心おだやかに
この危険な時を 乗りこえよう

ライン

- ① 必要以上に 従順でありすぎる
しかし そうであればこそ
今は 悪いことが起こらない
枯れかけた柳のような老人が
若い女性と 結ばれる

- 常識をはずれた 行為だが
二人が力を合わせれば うまくいく
③ 自信過剰で やりすぎる
屋根の横木が折れてしまう 凶
④ 屋根の横木を 高々と上げる
一人我が道を行けば いいことがある
他人に気を許すと 道を間違う
枯れかけた柳が 花を咲かせる
⑤ 老女が若い男性と 結ばれても
悪くもなければ よくもない
危険な大河を渡らねばならない
溺れるが それでも悪くない
⑥ やるべきことをやって失敗しても
間違いはない 小人は凶

アドバイス

生まれつき 心やさしい君が
世間知らずに なんでも喜んでやれば
どうしても やりすぎる 危険な時だ
しかし ためらっていても 始まらない
自分を信じて 運命に挑戦することだ

上 水 底知れぬ深さ 二男
下 水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

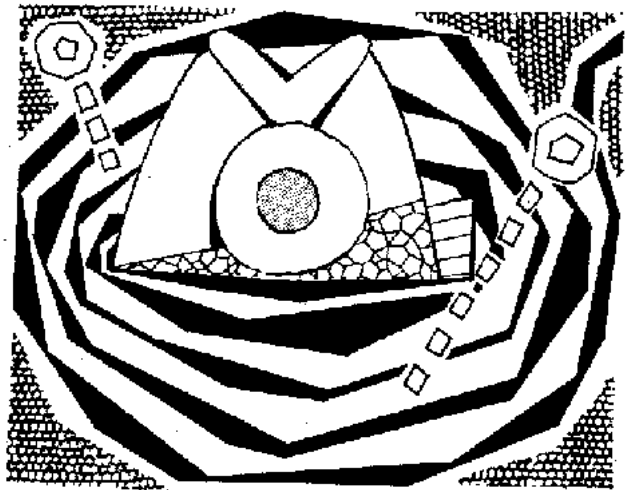
水は絶え間なく 形を変えて
あらゆるくぼみを満たしながら
最後は 大洋に流れこむ
青々と 水をたたえた 底知れない淵は
無限の知恵を 秘めている

託宣の言葉

重なる危険 深淵に落ちる
まごころを持てば その心は通る
どんなことでも 達成できる

ジャッジメント

休むことなく 形を変えては
次々と 流れ去る水は
とらえどころのない 無意識の流れだ
あちらこちらに 淵をうがち
深海の深みに 流れ込む
青黒い淵の 静かな表面は



鏡のように 人の姿を映し出す しかし

その映像の奥に 底知れぬ深さを隠す

ある時は 生命の源となり

時には その命を奪う恐さを見せる

困難を乗り越えた ところに

次の災いが やってくる

恐れてはならない

退いては敗ける 強くあれ

誠を尽せば 切り抜けられる

水は時に非情であっても

その本質が 変わることはない

非情である時は

その必要があるからこそだ

それは 大自然の摂理だ

度重なる困難を 必要悪と受けとめよ

真の強さと 誠を貫き通す

試練となれば 必ず報われる

ライン

① 淵また淵 深淵の中で

一番深いところに落ちる 凶

② 危険な淵の中にいる

努力すれば 少しは得るものがある

③ 前も後も 淵また淵

危険の中で立ちどまり 待つ

深淵に落ちたら 動いてはいけない

④ 一樽の酒と一皿の米を

質素な土器と共に 窓から差し入れる

最後には危険から抜けだせるだろう

⑤ 淵に 水が満たない

縁（へり）のところで 水がとまる

大事は成就しないが 危険はない

縄で縛られて いばらの獄に入る

⑥ 三年間は 抜けだす道が 見つからない

ひどい悪運に出遇う 凶

アドバイス

そこら中が 水だらけで

底知れない 淵に落ちたようなものだ

無意識の底から 不安が湧き上がり

判断力をくもらす

こんな時には 動かないことだ

水が引いて あたりが見えてくるまで

じつと潜んで 心を養う時だ



上火 輝く明るさ 二女
下火 輝く明るさ 二女

イメージ

日が昇り 日が沈み また日が昇る
日の光が空に満ちて
大空も地上も 黄金色に輝く
太陽は宇宙の運行に従って 動く
正しく光り輝くものこそ 美しい

託宣の言葉

草木が 大地に従って 育つように
ものがなければ 光は見えず
光がなければ ものも見えない
ものを見分ける 意識の光も
正しいものについて 見なければ
明るいとは いえない
すべてのものを 明るく照らし
世の中の動きを 理解するには
おとなしい牝牛が ひかれていくように
正しいものに つくことだ
暗い意識で ものを見れば
宇宙は暗く この世も暗い
心になにも 思うことなく
じつと静かに 宇宙の動きを 受けとめて
四方を照らした時に
はじめて 明るくものが見えるのだ
二つの陽に囲まれた陰の印は
自分を棄てて 宇宙に従う 虚心の心だ

ライン

① 足跡が乱れ 方向が定まらない
しかし 本気でものごとを考えれば
間違ふことは ない

心正しければ得るものがある
願うことが通る
牝牛のように おとなしく つき従えば
いいことがある

ジャッジメント

光は ものに形を与え
ものは光のあることを示す
たきがが なければ 火は燃えない
明るさは いつも ものと共にある
太陽が宇宙に従って あるように

- ② 真昼にかかる太陽は 黄色に輝く
すばらしい幸運に恵まれる
- ③ 日が沈みかける 酒がめをたたいて歌い
老年の訪れを嘆く他はない 凶
- ④ 突然にあらわれて
燃え上がり 死に絶え 棄てられる
藁火が燃えるように 人生の浮沈がある
涙を流して ため息をつき 思い感う
悪い状況を自覚して 考え悩めば
いいことがある
- ⑤ 敵の頭を殺して 従者を捕虜にする
心正しき者は 悪を討つべきである
小人は 逆につぶされる

アドバイス

燃え上がる火 昇る太陽
君は晴れやかに 美しく
ものごとの動きを よく知る人だ
一人 傑出して あたりを照らす
明るさは 相手があつてこそ 輝くのだ
虚心に 人に従うことを忘れてはいけない



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

山頂にある湖は
不思議な青さを たたえている
下界の汚れを知らない 美しさ
誇り高く 若々しい雰囲気まき散らし
若い男女は 無邪気に交わる

託宣の言葉

心正しければ 思うことが通る
異性と交われば いいことがある

ジャッジメント

山の頂きに 青い水をたたえた湖がある
水は山肌を伝って しみ通り
山の乾きを 潤す
下へ流れる水が 山の上にある
男が女に従っている形だ しかし
若い男女は 喜びと共に
心から 静かに感じ合う

感じ合う心が 終生一つに結ばれる

それは 自然の神秘的な働きだ

天のもつ陽 地のもつ陰

この二つの気が 交感することに通じる

その力は 万物を生み 育てる

汚れを知らない 若ものたちの

無邪気な愛は 美しい

自然に湧き上がる 無心の愛こそ

あらゆるものを 育てる力だ

心の奥で感じ合う 喜びを

忘れなければ そして

君の願う心が 正しければ

望みは 必ずかなう

ライン

① 足の親指に感じる

進む気持があっても 力が足りない

自ら動かずに 時を待て

② ふくらはぎに感じる

自ら動けば 凶

そのままであれば いいことがある

③ 太ももに感じる

人につられて動けば 後で後悔する

④ 心正しければ 悔いなくいいことがある

心がゆれて 定まらなければ

表面だけで感じ合うものが

これに応じて ついてくる

⑤ 背中に感じる

その心は だれとも感じ合うことなく

孤立するが 後悔には至らない

しかし 他人を感動させることもない

⑥ あご ほぼ 舌に感じる

口先だけを 動かしても

心は人に通じない

アドバイス

慎重で 考え深く 静かな山と

おおらかで 明るい湖の輝き

君は感覚にすぐれた人だ

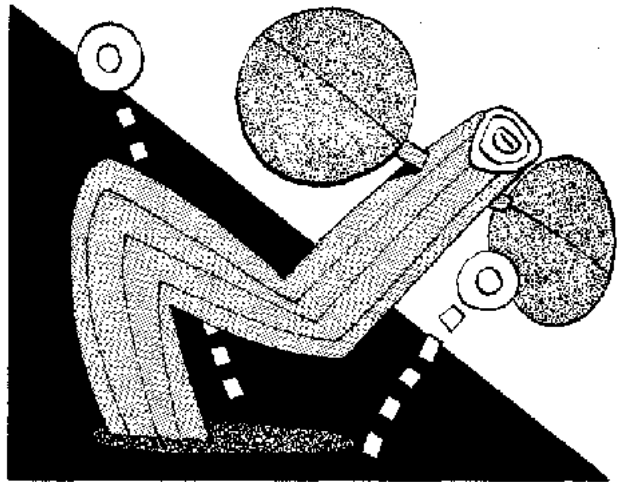
心の中に 豊富なイメージを持つ人だ

素直に 自分を表現しよう

そうすれば きつと認められる

若さにまかせて 表面的な愛に走らずに

心の底で感じ合う そんな深さを持つとう



上 雷 荒れ狂う力 長男
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

雷に風はつきもの
嵐が吹き荒れ 雷が鳴り渡る時は
心のよりどころを 求めよう
自然の変化の中にこそ
永遠に変わらないものがあるのだ

託宣の言葉

願いが通る 心正しければ悔いはない
なにをしても 成功する

ジャッジメント

風に乗って 雷雲は集まる
雲は雨を呼び 風を招く
嵐の後には 青空が広がり
さんさんと 日が照り輝く
大自然の動きは 休むことを知らず
同じところに とどまらない しかし
自然の流れには 規律があり

天候と 四季の動きには 法則がある
運命の流れも同じだ

ある時は高く ある時は低く
一つのリズムに乗って 動く
眼前に広がる光景は 変わっても
宇宙のリズムは 同じだ

運命の流れにそって 自然に動けば
人の生きる道（タオ）も 変わらない
変わるように見えるのは
眼前の風景ばかり

宇宙のリズムを つかもう
存在の根源を 見つめよう
そうすれば 君の道は変わらず
願いは成就する
宇宙のリズムが 不変なのは
その道が 正しいからだ

ライン

- ① 恒久なるものを 急いで求める
正義の押し売りは 人を退ける
心正しくても いいことはない
場違いなところにたつ
- ② 心の正しさを守れば 後悔はない

③ 自分の場所に満足できず

勝手に動けば 受け入れられず
恥辱を受けることになる

④ 狩にでても 獲物がいない

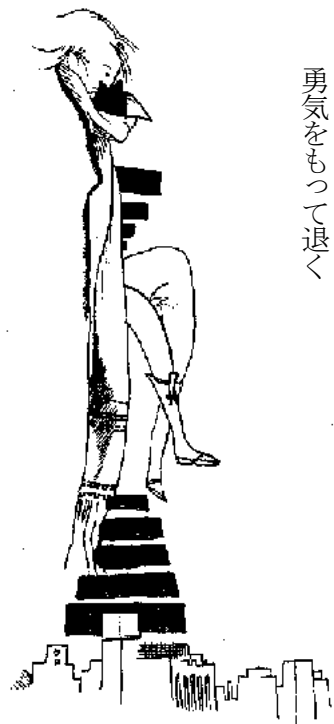
探すところを誤れば 何も得られない
心正しく 変わらぬことを誓うのは

⑤ 女性にはいいが 男性には悪い

一つのこと忠実でも 積極性に欠ける
いつも落着かず 揺れていれば
何も得られず 災いが起こる

アドバイス

心の中に柔軟な思考を持ち
四方に向かって 自由に進む
力強い長男と やさしい長女は
相性がよくて いつも一緒だ
内と外が しっくりと合って
心に葛藤がない時に
人は初めて 自由に動ける
時の流れ 宇宙の動きに乗って
心正しく 力強く 自分の道を進むのだ



上 宇宙 限りなき創造 父
下 山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

夕空の下に 山なみが続く
山はどんなに高くても
天にはとどかない
愚かなものたちが はびこる時は
ただ退いて 距離を保とう

託宣の言葉

相手を恐れて 逃げるのではない
相手を憎んで 去るのではない
天の運行を さまたげないために
ただ いさぎよく 退くのだ
時に応じて戦い 時に応じて退く
退く時を 逃してはならない
力も地位もある間に
厳しく 自分を守って 退こう

その厳しさは 愚かな人たちにも
教えることがあるだろう
その力強さは 愚かな人たちを
遠くに とどめるだろう
真実を守り通す力があるなら
すべてを棄てて 恐れずに退く時だ

ライン

- ① 最後に退く 危険は迫っているが
今は なにもする時ではない
- ② 牛皮でしばりつけたように
考えを変えない
- ③ 誰も これを解くことはできない
退くのに かかわりのある人が多く
自分の思うようにならない

思うことが通る 心正しければ
小さなものにも 得ることはある

ジャッジメント

世の中が乱れ つまらない人たちが
勢いを得る時には
山の彼方に 隠遁しよう
日が沈みかける 夕焼の空の下に
くつきりと 山々が浮かび上がる
あの山の果て 空の果てまで 退こう
勇気を持って 退くことは

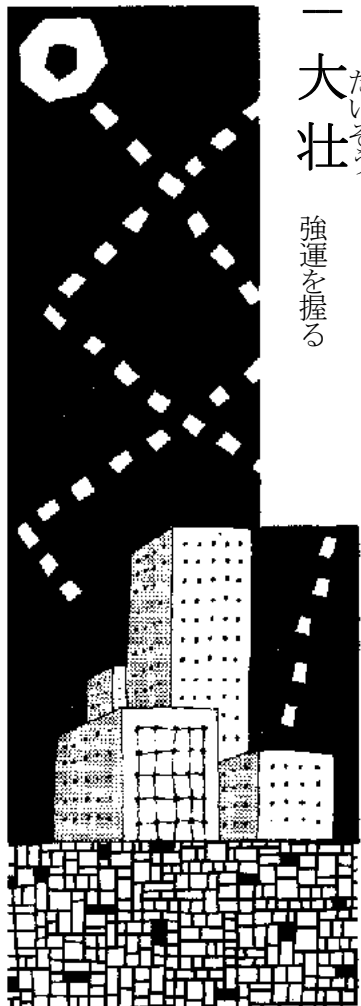
- ④ 目下のものなら 邪魔にはならないが
それでは 大きなことはできない
自分から好んで 退く
- ⑤ 賢人の道だが 愚かものにはできない
喜んで 退く
心正しく 意志が強ければ
気の向くままに暮らし いいことがある
余裕を持って 退く
なにごとくも 思うようになる

アドバイス

限らない創造力があらわれて
人に認められ もてはやされる時だが
君はもともと 内向的で 静かな人だ
世間の評価と 自分自身が
どこか ぴたりとこない
天まで昇るような勢いで外に向かう力と
静かに内にこもる 山のような静けさが
心の内で幕藤を続ける
どこかに逃げだしたくなる時だ
自分に自信があるなら それも悪くはない

34 大壮 だいそう

強運を握る



上 雷 荒れ狂う力 長男
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

はるかな空の高みに 遠雷が響く
人々が仰ぎ見る中で
名声が 四方に広まる
その名声に負けないように
自分を磨き 礼を守ろう

託宣の言葉

心正しい人は 得るものがある

ジャッジメント

創造的な力が 竜のように舞い上がる
なにをやっても成功する しかし
自分の力を 過信してはならない
運勢は まさに 君と共にあり
今は どんな望みも かなう
それは 君の力だけではない
ものごとが栄える運勢の潮時に
たまたま 出合ったからなのだ

人生は いつもいい時ばかりはない

運が味方する時に なすべきことは
外に向かつて 強さを誇るよりも
内に向かつて 礼を知ることだ

ものごとの 順と規律を学ぶことだ
宇宙の運行を 羅針盤に
自分の動きを知ることだ

ただ やみくもに 運勢に乗って
強い力を ふりまわしてはならない
人のためにも 自分のためにもよくない
運勢は盛んな時だけではない

どんな時にも 心正しく
時の流れと共に生きよう
宇宙の動きと 心の動きが調和する時に
はじめて 本当の礼儀が生まれる

ライン

- ① 足の先に力が集まる
そのまま進めば 凶 必ず災難に遇う
- ② 心正しければ いいことがある
成功に酔って 進みすぎてはいけない
- ③ つまらない人は 強い運に乗って進む
賢い人は 自分を戒める

心正しくても 危険が多い

勢いに乗って猛進すれば
雄羊が垣根に頭を突きさして
角を傷めるようなことになる

④ 心正しければ 悔いることなく 吉

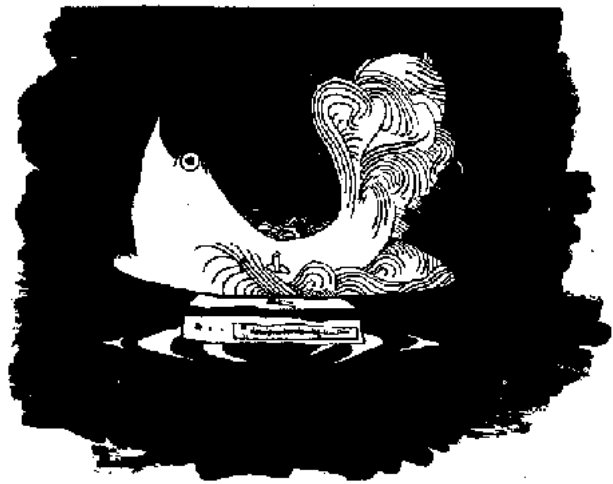
障害は除かれ 大車の車軸は強い
さらに先に 進むことができる

⑤ 羊は 強さを失う なにごとも
うまくいきすぎて 押すことを忘れる
それでも 後悔することはなく
雄羊が垣根に頭を突きさす

⑥ 進むことも 退くこともできない
得ることはない しかし 困難を自覚し
耐え忍ぶならば いいことがある

アドバイス

昇り竜のように 勇ましく
どこまでも発展しようとする
生来の創造的な素質があれば
成功しないはずはない
後は努力あるのみ



上 火 輝く明るさ 二女
下 大地 心からの受容 母

イメージ

地平線に 明るみが増し
昇る太陽の 最初の一線が
きらりと あたりを 照らしだす
新しい英雄の誕生と共に
一日の動きが 始まる時だ

託宣の言葉

力強い王子が 何頭もの馬を
褒美にもらい 日に三度も接見を許される

ジャッジメント

暗闇から出た 意識の光が
あたりを照らす時
この世に 新たな英雄が誕生する
それは 光り輝く 意識という英雄だ
暗い心の深奥には
あらゆるものの調和を計る
内なる世界の統率者が住む

その人から もらった馬を駆って
意識という若い王子は 空高く進むのだ
内なる王の寵愛を受けて
恐れることなく 世界を照らし
自分を照らし ものごとを明らかにしよう
真の英雄は 持てる力を
自分のためには 使わない
心の深奥に住んで
外の宇宙と 動きを共にする
たった一人の真実の人に捧げるのだ
太陽が 宇宙の正しい動きに従って
人々に 熱と光を そそぐように
明るい意識は 心の正しい動きと共に
鋭い洞察力を持って
誇らかに ものごとを 進めるのだ

ライン

- ① 進もうとしても 引き戻される
心正しければ いいことがある
人の信用を得られなくても
怒らずに 静かに待てば 間違いない
進もうとしても 心配ごとが多い
心正しければ いいことがある

- ③ 祖母から 大きな幸運を授かる
人々の共感を集める
後悔することは なにもない
④ 野ねずみのように 恐れて進む
心正しくても 危険な時だ
⑤ なにも 悔いることはない
ものごとの損得を気にしてはいけない
進んでことに当れば いいことばかりだ
角で守りを囲めて 進めば
自分の村の反乱を抑えることができる
危険はあるが 結果は悪くない
しかし 心正しくても
武力を使うのは賞められない

アドバイス

明るく なにごともよくわかり
しかも 暖かく 共感をもたれる
皆に受け入れられて
ものごとが 大いに進む時だ
自分自身の洞察を怠らないようにしよう

上 大地 心からの受容 母
下 火 輝く明るさ 二女

イメージ

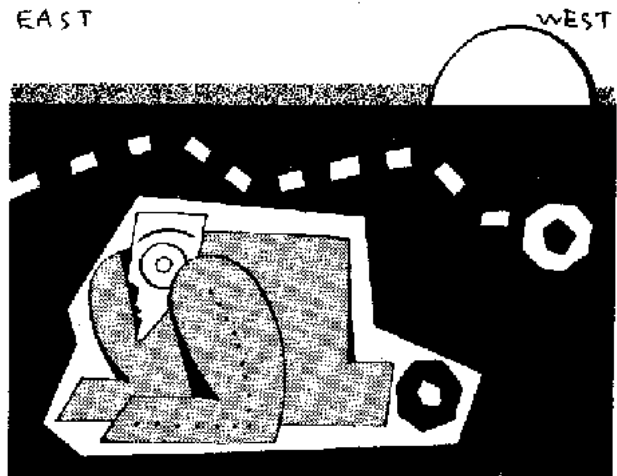
西の大地に 日が沈む
英雄は傷つき 地下に隠れて
力を貯え 再生の日を待つ
聡明な人は 自分の知恵を隠して
危機を 乗り切る

託宣の言葉

危険を自覚して 心正しく生きる

ジャッジメント

英雄が傷つき 意識の光は消えて
あたりは 次第に暗くなる
一日が終って 太陽が西に沈む時
人々は 夜の暗さを思つて 心も沈む
活動的な昼が過ぎて
静かな夜が 足早に迫る
心の深奥に沈んだ 太陽は
無意識の闇に 横たわり



傷つけたからだを 静かに休める

今は 明日に備えて力を貯え

深い眠りを むさぼる時だ

賢い人は 自分をあらわさず

一人 瞑想の光を 楽しむ

内なる世界の神秘を知るものは

真夜中に 太陽が煌々と照り

大地の下を 過ぎ行く姿を見るだろう

海の底を行く 怪魚の腹中で

生まれ変わろうとする 英雄が

ナイフを構えるのを 見るだろう

傷つける太陽は 愚かな人の前では

その光を隠すが

賢い人には 再生の秘密を教えるのだ

ライン

① 暗闇に 飛び立って翼を傷つける

三日も食わずに さまよい歩き

行きついた先の宿では 悪口をいわれる

② 暗闇の中で 左の太ももを傷つける

力のある馬が助けてくれれば

いいことがある

③ 暗闇の中で 南方に狩をする

狩の途中で 悪の大王と戦って勝つが

悪を正すのに 急いではいけない

④ 左の腹から入って 悪王の心を掴む

自分の家を出て 悪王の腹中に住む

⑤ 昔 箕子という人がいて

異母弟の暴君 紂に仕え

狂人の真似をして 心の正しさを守った

世の中が乱れ 暗闇が襲っても

心の太陽を失わずに 生きよう

⑥ 光は失われ 暗闇ばかり

暗闇の中で地位を得るものは

最後には 自ら暗闇に葬られる

アドバイス

世の中は暗く 運命は君に味方しない

自分自身を しつかりと持つてから

皆の意見を受け入れることだ

無理をしてはいけない

積極的に出なければ 間違いはない

チャンスを待つ 気持のゆとりを持つとう

君の考えは 遠からず認められる



上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 火 輝く明るさ 二女

イメージ

かまどの火から煙が昇る
一家団欒の時だ
どんな山奥にも 荒野の果てにも
一筋の煙の下に 人が住む
人の行く道は 家族に始まる

託宣の言葉

家にいる人の 心正しければ
得るものがある

ジャッジメント

火はエネルギーの源だ
火が燃える時 力が生まれ
風に乗って 四方に運ばれる
ものごとは すべて
内から始まり 外に広がる
男女が一つになって 子どもが生まれ
兄弟姉妹が協力して

最初の小さな 社会が生まれる

二人の男女が寄り集まれば

そこに一つの社会が生まれ

人の生きる暮らしが 始まる

社会を治めるものは

まず 自分の身を治めることだ

家族の順を守って

小さな社会を 正しく生きよう

父が父らしく 子は子らしく

兄は兄らしく 弟は弟らしく

夫は夫らしく 妻は妻らしく

家族のそれぞれが

自分の役割を守ってこそ

小さな社会は丸く治まる そして

そこから 世界の平和が生まれる

自分の身の回りを治められないものが

天下を治めることが できようか

すべて ものごとは 身近から

静かに ゆっくりと 始まるのだ

遠くを見るより 近くから始めることだ

ライン

① 最初から 家族が結束していれば

② 悔いることも なくなる

人に従うばかりで なにも成就できない

家で 食事の仕度をする

心正しければ いいことがある

③ 家を治めるものが 厳しすぎて

家族は音を上げるが

多少の後悔があつても 結果は吉

甘やかしすぎると 不幸を招く

④ 家に豊かな気分が溢れれば

すばらしい幸運に恵まれる

⑤ 王者の風格のあるものが 家にいれば

気がかりなことはなく うまくいく

⑥ 家族の尊敬を受ければ

終わりには いいことがある

アドバイス

心の中では しつかりと

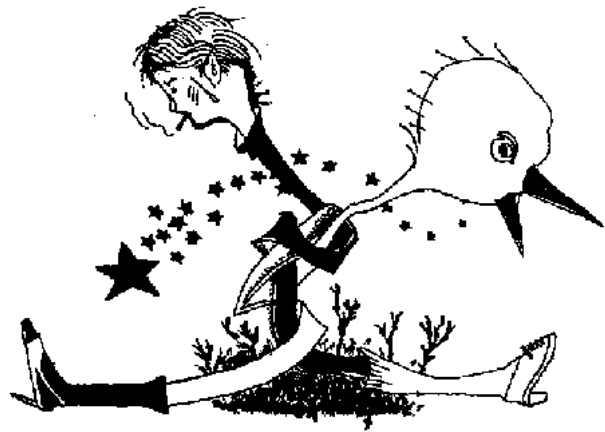
なんでも ものがわかるのに

表面は 風のように やさしく

人々に さからわない

どんな人にも 家族のようにやさしい

それでいて 自分を失わずに生きよう



上 火 輝く明るさ 二女
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

湖の上に 火が燃える
夏の夜の 湖上にきらめく花火は
一瞬 輝いて 八方に散る
明るく 美しい二人の姉妹
同じ明るさでも そむき合う

託宣の言葉

小さいことなら 悪くない

ジャッジメント

燃え上がる 花火のきらめきは
一瞬 湖に映えて 美しい しかし
後は冷たい水に消える
燃えるものと 消すもの
上がるものと 下がるもの
性格の逢うもの同士が一緒になっても
お互いに反発し合うだけで
小さなことしか やりとげられない

しかし 皆が同じであつても
なにも生まれないだろう
天があり地があつて 世界が生まれる
男がいて 女がいるから
子孫も生まれる
すべてのものが それぞれ異なり
そむき合い 愛し合つて
一つの世界を 作るのだ
すべてのものが 陰と陽との氣を受けて
両極に別れて ひき合うのだ
人と自分の違いを知つて
独自の道を切り開こう
求めるものは 同じでも
人それぞれの 考えは逢う
軽々しく 妥協はしないことだ

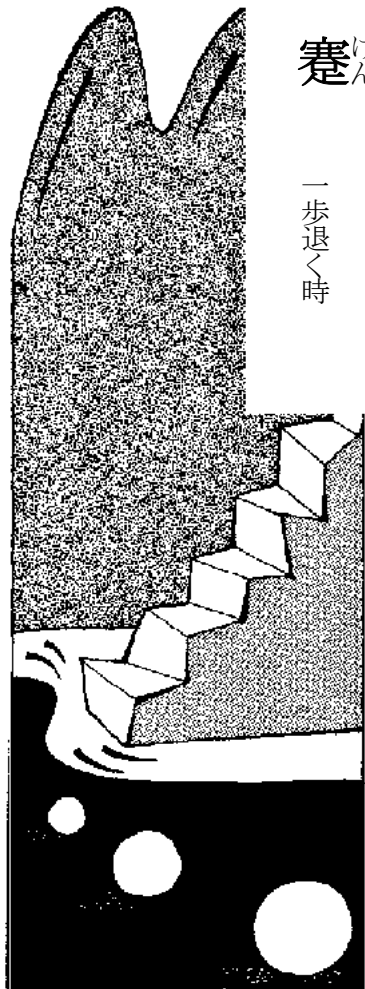
ライン

- ① 悔いることはない 馬が逃げるが
追わなくても 戻る
悪い人に合つても 間違いは起こらない
求めている人に 思わぬ所で逢う
一心に捜すことだ 間違ひはない
- ② 無実の罪をかぶせられる しかし

アドバイス

外向きは賢く 派手に見えても
本当は無邪気で 素朴な君は
周囲から誤解されることが多い
他の考えに合わせて ふるまうことはない
自分の心のままに 生きればいいのだ

- ④ 邪は正に敗れる 結果はいい
人にそむいて 孤独をかこつ
よい人に遇つて 心を交す
危険な時だが 悪いことはない
心配することはない
- ⑤ 仲間の強力な応援がある
一緒に進めば 間違ひはない
人々にそむいて 孤高を保つ
仲間が泥をかぶった豚に見える
車に溢れる幽霊が見える
- ⑥ 弓を引こうとするが 氣がついて収める
襲うのではなく 親交を求めるものだ
疑いを棄てて 手をさしのべれば
雨が降つて地囲まり 幸運に恵まれる



上 水 底知れぬ深さ 一男
下 山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

暗い淵が 前をさえぎり
後には 険しい山がそびえている
どちらを向いても 進めない
この辺で一歩退き
自分の心を見つめる時だ

託宣の言葉

西南の方角にはいいことがあり
東北に行けば 道がふさがる
賢者にあつて 教えを乞う
心正しければ 幸運がくる

ジャッジメント

なにをやつても うまくいかない
先の見通しも 悪く
もとに戻ることも できない
八方ふさがりで 動けない
こんな時には 無理して進まないことだ

自分の中に退いて

心の奥に住んでいる 賢者に尋ねよう
無意識の底には

自分のものでありながら

まだ 見たこともない 賢者がいる

その人を探し求めよう

外状況が暗い時には

心の中は 明るく輝く

自分の中の 老賢者に

出遭うことさえ できれば

道は 自ら開け 幸運の女神がほえむ

東北は 退く道 心の中にこもる道だ

前にも 後にも 進めない時は

自分の心の中に 進もう

そうすれば 必ず いいことがある

ライン

① 進めば 困難に出通い

とどまれば 名誉に恵まれる

② 困難は避けるべきだが

正しいことを通すために

身を棄てて 尽くすのならば

ことが成就しなくても 悪くない

③ 障害があつて 進めない時には

もとに戻つても 間違いではない

④ 進めば 困難に出通う

退けば 友が集まり

団結して 再起を計る

⑤ 前にも進めず 後にもひけない

大困難の最中でも

勇敢に 戦つていれば

かならず 同志が助けにくる

⑥ 進みたくても 進めない

自分の考えを棄てて

賢者の言葉を聞こう

これに従えば 幸運に恵まれる

アドバイス

まわりが見えず 心も奮わない

なにをやっているのか

自分でも さっぱりわからない

静かに 自分の心をふり返り

偉い人の意見を聞いて 考える時だ

そのまま 進んでも 困難に出遇うだけだ

上 雷 荒れ狂う力 長男
下 水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

どしゃ降りの雨が降り
雷鳴が鳴りひびく時は
家に帰って一休みしよう
雨は 張りつめた気分を解いてくれる
しみじみと 雨だれの音を聞く時だ

託宣の言葉

西南の方向に行くといい
行くところがなければ 家に帰ろう
いいことがある 行くところのある人は
早く用をすまして 帰れば 悪くない

ジャッジメント

雨降って 地固まる
今は 心の緊張をといて
ゆつくりと 休む時だ
一雨ごとに 草木が芽吹き
春の訪れも 遠くない



忙しい仕事の 合間にも

しつとりとした 雨の情緒を 味わう時だ
雨上がりの 濡れた町には

香わしい 春の香りが ただよう

ゆつたりとした気分で 自分を受け容れ
人々の誤ちを許す

心の余裕を 持つ時だ

まだ やり残した仕事があれば
早く すませて 家路を急ごう

人生には 水が流れるように
気がかりなことを 棄てて

心からくつろぐ 時が必要だ
それが人間の生活の 本当のあり方だ

昨日を思わず 明日を憂えずに
今 この時を のびのびと生きる
それが 本当に生きることなのだ

ラインの言葉

- ① 自分に安住していれば
間違うことはない
- ② 狩に出て 三匹の狐をしとめ
褒美に 金の矢をもらう
悪を退治して 心安まる

③ 重荷を背負って 車に乗る

苦勞しなければならぬ時に
車に乗って樂をすれば 盜賊に狙われる
心正しくても いいことはない

④ 足の親指を切る

つまらないものたちとの交際を切れば
信頼できる同志が 集まる
心をしつかりと持って

⑤ 人々との交際を断ち切ろう

そうすれば 小人は寄りつかなくなる
城壁から 隼(はやぶさ)を射る
悪を除いて 心を解放する時だ

アドバイス

先に進もうと 気ばかりあせるが
なにをやったらいのかわ
自分の本心が 定まらない
こんな時には 家に帰って
心の緊張を解き一休みすることだ
これまでの考えを棄てて 無心になり
もう一度 心新たに直す時だ

上 山 内にこもる静けさ 三男
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

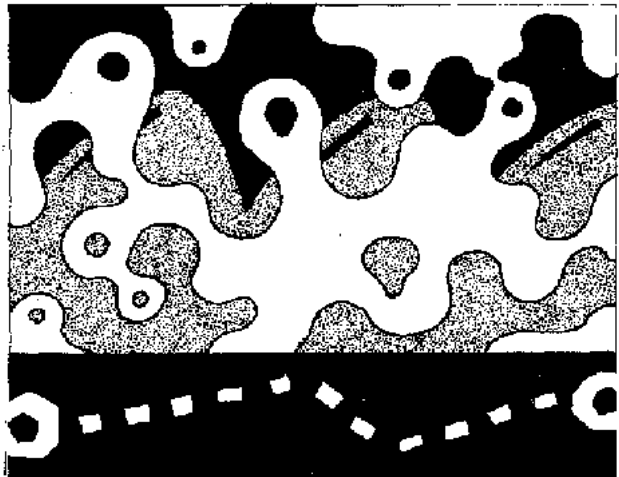
静かな湖面から 霧が立ち上り
山の姿が 見え揺れる
湖が霧を生み 自分を棄てて
山を育て 木々を茂らす
損することは 美しい行為だ

託宣の言葉

まごころがあれば すべてうまくいく
間違いはない 心正しい人は
きつと なにかをやりとげる
形式にとらわれず 質素に
そして 敬虔に 生きよう

ジャッジメント

私利私欲に走れば きりが無い
しかし 自分の持っているものを
人に与えるのは 限りがある
損をして また損をして



しまいには なにもなくなっても
心に誠のある人は 恐れ無い
私利私欲を棄てれば 棄てるほど
無心の境地にたどりつく
限らない 人間の創造力を信じれば
失うことを 恐れることはない
一度 自分を棄ててみることで
そうすれば 人生の真の喜びと自由が
どこにあるかを 知るだろう
あれもこれもと 欲しがるものは
その欲望に 自分を縛りつけられ
身動き一つ できなくなる
湖が 自分の土を捧げて
山の高さに 尽すように
澄んだ喜びとともに 自ら損するものは
山のように 高い徳を得る
向上心もぜいたくも 棄ててみることで
後には ダイナミックな創造力が残る
それこそ真の自由だ

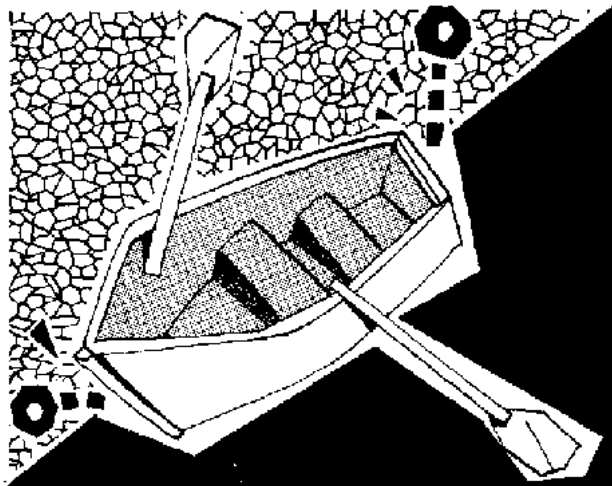
ライン

① 自分の仕事を中断し 人助けに行けば
間違いはないが すぎないことだ

- ② 心正しい人は 自分を守るだけでいい
泣きついてくる人を つきはなすのは
かえって その人のためになる
- ③ 三人連れでは一人あまる
一人旅なら 友を得て
幸運に恵まれる
- ④ 悪い部分を 早目に損（へら）す
喜びこそあれ 間違いはない
- ⑤ 君がもし 徳に恵まれているなら
何度 占つても いいことばかり
すばらしいことがある
- ⑥ 心正しい人は その道を守れば
損することが得となる 間違いはない
すべての人が 君に従う

アドバイス

君は美しい湖のように 輝く心の持主だ
しかし 自分を守って動こうとしない
自分を棄てる気で 思いきって行動しよう
もつと 自由にふるまえば
内に秘めた輝きが あらわれる



上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

風が吹き荒れ 雷鳴がとどろく
壮大な 大自然の驚異の光景だ
畏敬の念と共に 戦慄が走る
小さな木舟が 嵐の中で揺れている
慎重に 自分を反省しながら 進もう

託宣の言葉

なにをするにもいい
大河を渡る 決断の時だ

ジャッジメント

風には形も姿もないが
宇宙の気配を 四方に伝える
荒れ狂う 宇宙の創造力を
素直に受けとめ あたりに告げる
風が激しくなれば 雷はその響きを強め
雷が鳴れば 風はさらに疾（はや）くなる
風と雷は一つになって

大河に浮かぶ 木舟を押しだす

荒波にもまれ 満風の帆をはらませて
稲妻の光の中を 進む舟

今こそ 危険を冒して

大自然の力を受けて 船出する時だ
勇気をもって 試練に挑戦する灯だ
君に 人に優る善さがあれば
それに従い

誤ちがあれば 敬虔な心で改めよう
それは 自分を豊かにする道であり
人を富ますことに通じる
人に益する時に
はじめて 自分が得をするのだ

ライン

- ① 大きな仕事をする時だ 成功するが
邪悪な心があつてはならない
- ② 人が君に尽してくれる
何度占つても 心正しければ 吉
幸運は 外からやってくる
- ③ 凶事の時 自分から益を求めてよい
しかし 求めすぎてはいけない
誠意と信じる心を 忘れてはならない

そうすれば 間違いはない

④ 私利私欲に走らず 正道を行けば
必ず 力ある者の援助に授かる
大事の時に 独断を避ければ
人々の信頼を 失うことはない
まごころのあるものは

⑤ 人に求めることはしない
すばらしい運に恵まれる
心からやさしければ
人もまた やさしくしてくれる
いつも自分の益を求めるものは
人に打たれるだけだ
利益のために 心変りする人は 凶

アドバイス

心の中に勇気がみなぎる時は
勢いにまかせて 進んではいけない
やさしく 柔軟な態度で
世間の荒波を乗り越えるようにしよう
気ばかりあせっても うまくいかない
チャンスを待てば 幸運が無い込む



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 宇宙 限りなき創造 父

イメージ

湖の水が 天まで昇る
ものすごい どしゃ降り
ダムが決壊して
土や砂が 天から降ってくる
裁きの時は近い

託宣の言葉

ものごとを裁く時は 危険がある
まごころと共に告げなければならぬ
まず 自分をよくふり返り
やたらに武器をとってはならない しかし
するべきことは思い切つてするとい

ジャッジメント

危険！ 高みにせきとめられた水は
いつ溢れだすか わからない
のぼせあがった 小娘が
親にかわつて 支配するようなものだ

麓のくぼみで つつましく
静かに輝く湖が
天の高みに のし上がり
気違い雨を降らしたら
すべてのものが 壊れてしまう
ダムが崩れて 土砂を飛ばし
鉄砲水が 村を襲う
ものごとの上下と善悪は
すばやく 厳しく 裁くべきだ
小娘が あまり調子に乗らないうちに
小ものが すべてを支配する前に
決断が なにより大事な時だ しかし
勢いに乗つて 相手を攻めてはいけない
それでは 小娘と同じことだ
落着いて しかも はつきりと裁くのだ

ライン

- ① 進もうとして 足を踏みだすが
気ばかりさかんで 勝算がない
間違ふことがある
- ② 警戒して叫ぶ 日暮れて敵に襲われても
心配することはない
- ③ 敵意を顔にあらわせば 災いを招く

- ④ しっかりと心を決めて 一人行けば
雨にあつて濡れても 間違ひはない
太ももの皮膚がむけて 歩きにくい
羊の後について行けば 後悔はないが
耳があつても 聞こうとしない
- ⑤ はびこる雑草を しっかりと抜く
正しい道を行けば 間違ひはない
叫ぶことはない 勝利はたやすいが
終わりはよくない
- ⑥ 悪はしっかりと亡ばさないと
新しい悪が 再び芽生える

アドバイス

礼儀も知らず ものごともわきまえずに
やたらに なんでも口を出す
そんな不遜な態度では
なにごとも 成就しない
今は決断の時だが
自分の立場を考えて
出すぎないように注意することだ
力で押しても ことは進まない



上 宇宙 限りなき創造 父
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

天の下で 風が渦巻き
明るい日射しに かげりが生まれる
一人の女が 男たちと出遇つて
争いを巻き起こす
つまらないものに かかわらないことだ

託宣の言葉

この女は気が強い 近よらないことだ

ジャッジメント

この宇宙の中の あらゆるものは
陰と陽 暗と明 女と男の
出遇いから 生まれる
対立するものが 争えば
不毛の天地を 作るばかりだ
風が空を舞つて 陰の気を生む
暗さをふりまく この女は
最初は弱く やさしく見えても

次第に あたりを支配する

一人の女に 五人の男

男たちが 女のために争えば
すべてを得るのは一人の女だ
やさしげな顔で 近づくものは
不貞な女と似たようなものだ
才能と力に頼つて

見かけの弱いものを あなどれば
争いに負けて すべてを失う
媚びを売るものや 甘言を弄(ろう) するものに
心を許さないことだ
風がしみ渡るように

心の隅々まで 気を配ろう

情緒に溺れて 人を見る目を失えば
一人の女でも 生命とりとなる

ライン

- ① 青銅の車どめで 動きをとめる
心正しければ いいことがある
そのまま進めば 災難に出遇う
やせた小豚にも 気をつけよう
魚を包めば 間違いはない
② この魚はつまらないものだ

客の前に出してはならない

- ③ 太ももの皮がむけて 歩くのがつらい
危険はあつても まだ大丈夫だ

- ④ 包むべき魚がない

つまらないものにまで 背かれる
行動を起こせば 災難に遇う

- ⑤ 柳の籠で 瓜をやさしく包む

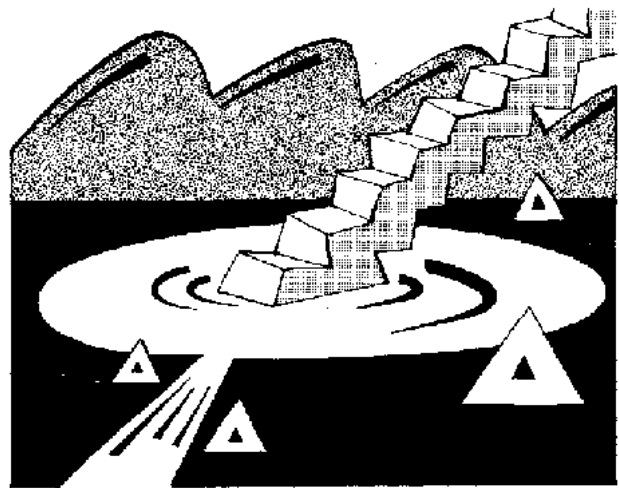
心の美しさを隠して ふるまえば

天から福が舞いこむ

- ⑥ 誇り高く 人々から孤立するものは
いいこともないが 間違ひも犯さない

アドバイス

表向きばかり 権威的で
心の中は 揺れ動くばかり
それでは人に つけこまれる
よからぬ友が まわりに集まり
君の心にとり入ろうとする
たとえ 女のように やさしく見えても
あなどれば 足をすくわれる
人を見る目を養おう



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 大地 心からの受容 母

イメージ

湖の水が溢れて 草木を沈め
川に流れて 洪水となる
情熱が溢れば 混乱が起きる
大事を成就させるために
心を一つに集めよう

託宣の言葉

古代の帝王が祭場に近づく
賢者に遇えば 得るものがあり
心正しければ 願いがかなう
大きな犠牲を捧げれば 幸運に恵まれ
なにをやっても うまくいく

ジャッジメント

広大な宇宙に 陰と陽との気が
あちらこちらに 集まって
ものの形を作りあげ
人の運命を 織り上げる

ものが集まれば 混乱が生じ
これを治める人が必要になる
集まり方が 違っていれば
運命の糸が乱れて 形になら
あらゆるものを一身に集めるには
天と祖先に 犠牲を捧げることだ
宇宙の中に 身を投げだして
すべてを棄てて 祈ることだ
陰陽の気と一体になるには
小さい自分を棄てなければならない
一家が揃って 祭りをすれば
祖先の霊も 集まってくる
身を棄てて 宇宙と一つになった時
あらゆる力が集まって
はじめて大事が 成就するのだ

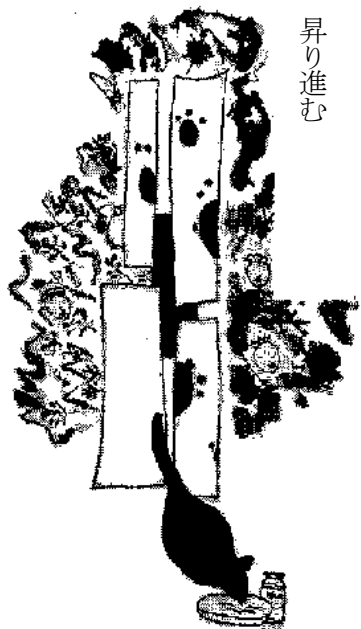
ライン

- ① まごころはあっても 続かない
どこに集中したらいいか わからない
泣き叫べば 助けてくれる人もある
恐れずに共に進めば 喜びを得られる
人に引き上げてもらえば
いいことがある 間違いはない

- まごころがあれば
供物は貧しくても 得るものがある
集まろうにも 仲間がいらない
嘆くばかりで 得るものがない
立場の違う人と 親しむことはできるが
間違いはなくても よくもない
大いにいいことがある
自分を賭けて 進むべきだ
人々の心を集めて 高い地位につく
間違いはないが 忠誠でない人もいる
さらに自分を磨けば 後悔はない
頼りにして 集まる友がいらない
孤立無援を嘆き悲しみ涙を流すのみ
現状を打開する努力が必要だ

アドバイス

大地のように 心から人を受け入れ
いつも喜びに溢れていれば
周囲に集まる人も多い しかし
多くの人を 混乱なくまとめるには
自分の心を 統一することだ



上 大地 心からの受容 母
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

大地から 水を吸い上げて
種から芽が生じ 木が育つ
人の一生も 木のように 大地に根ざし
毎日の生活の中で
少しずつ 可能性を開くのだ

託宣の言葉

願いごとは 大いにかなう
賢者に合っても 恐れることはない
南方に行けば いいことがある

ジャッジメント

大地にしっかりと 根をはる木は
急ぐことなく 休むことなく
静かに成長を続ける
心の奥に流れる 生命力を吸い上げて
しっかりと 自分に根ざして進めば
どこまでも高く 成長できる

地面の下を流れる水が

すべての成長の源泉であるように
心の奥の生命の泉は

限りない可能性を開き

汲めども尽きない 力を与える

人の成長には 限りがない

心を開いて 他人の意見を入れ

積極的に しかも つつましく

すすくと 木がのびるように

自分の心を 育てよう

偉い人には 進んで合うことだ

いずれは育つ 可能性を信じれば

相手は誰であつても 恐れることはない

明るく暖かい 南方に向かって

心の希望を ふくらませるのだ

君は今 強い運勢に乗っている

ライン

- ① 自信を持ち 年長者に従えば
大きな幸運に恵まれる
- ② まごころを持つて 祭りごとをすれば
粗末な供物でも 間違いはない
形式に沿わないでも 認められる

③ 無人の町を行くように

障害もなく 進むことができる

運勢の強いうちに 先を急ぐ

④ 目的を成就して 神に感謝する

幸運に恵まれて 咎められることはない

⑤ 心正しければ いいことがある

一段一段と 足を踏みしめて

さらに高い目的に向かって 段を登る

⑥ 盲目的に前進するだけでは 力を

無駄に使うだけだ 私利私欲を棄てて

どこまでも心正しく 生きてこそ

本当に 成長することができる

アドバイス

君が 自分の可能性を信じて

どこまでも成長しようとするならば

心を開いて 他人の意見を受け容れ

深い経験を持つ人に 従うといい

今は なにも分からなくても

そのうちに いろいろなことが見えてくる

あわてずに しっかりと 進むことだ



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

水が引いて 潮の底が干上がり
灰色の風景が どこまでも続く
希望は枯れて 方策もつきる
進もうにも 力がでない
身を棄てて 努力するのみ

託宣の言葉

願いが通る 正しい道を行こう
賢者ならば 間違うことなく 悪くはない
愚かな者は 意見を述べても信じられない

ジャッジメント

水の枯れた湖は
血が通わない 身体（からだ）のようなものだ
生気が失せて 起きあがれない
喜びの源泉が 消えれば
後には 苦しみが残るばかり
賢者は 困苦の中でも 道を楽しみ

心の喜びを失わない しかし
愚かなものは 口先だけで
苦しい立場を逃げようとする
楽しい時も 苦しい時も それは
人の生きる道の 流れなのだ
楽ばかりを 追い求めれば
自分の道から はずれるだけだ
どんな運命も 素直に受けとめて
その中に 生きる道を見出そう
晴天が続く 喜びが大きければ
その後には 水が引く時もある
賢い人は 困難の中でも
生命を投げだして 自分の道を行く
それが本当に 生きることなのだ

ライン

① 切株に坐って考えれば 腰が痛む
深い谷間に迷いこんで
三年間も 世に出られない
飲食をとりすぎて 苦しむ
高い地位に上がれば 生活には困らない
しかし 心の犠牲を払わねばならない
そのまま進めば 災難に出遇うが

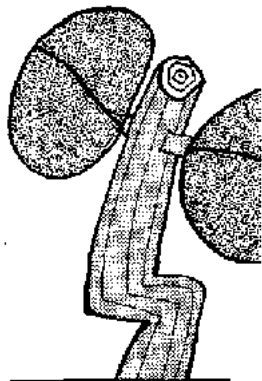
大きな間違いはない
③ 石に道を塞がれて 苦しみ
いばらの茂みに 腰を下ろす
家に帰っても 妻が見えない
ゆっくり休む場所もない 凶
④ 金の車に乗るものたちに 引きずられて
友を助けるのに 時間がかかる
最初は悪いが 終わりはいい
⑤ 身体を傷つけられても 困らないが
高い地位を押しつけられて 苦しむ
自分の思うようにはならないが
静かに喜びが訪れる 祭事を行う時だ
⑥ つる草にからまれ 険しい道に苦しむ
今 動く危険なようだが
思いきって進めば 後悔しない

アドバイス

心の中は水のように わけもわからず
ただ 無邪気に前進すれば 苦しむだけだ
しかし それも人生の一つの場だ
生命がけで努力する他はない

48 井^{せい}

人の心をうるおす



上 水 底知れぬ探さ・二男
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

水に沈む木
井戸の水を汲み上げるように
木は 水を吸い上げて 枝を茂らす
井戸は 貴重な生命の水の源だが
下に落ちこむと 恐ろしい

託宣の言葉

町の様子は変わっても
井戸は いつも同じだ
水が減りもせず 増えもしない
水汲みの人たちが
井戸のまわりに集まっては 去るが
水はただ静かに 動かない
縄がもう少して 水にとどこうというのに
つるべがこわれる 凶

ジャッジメント

世代が移り 人々の姿は変わっても

井戸のまわりには 生活がある
草木も 動物も 人間も
水と共に 生きるのだ
原初の昔から
地下には生命の水が 流れる
大木が 根から水を吸い上げるように
井戸は 人々の暮しをうるおす
人の心の底にも
汲めどもつきない 力が流れ
我々の 生きる道を うるおす
水があるのに 汲み上げなければ
新しい水は 湧いてこない
井戸のつるべが壊れたら
ものは皆 成長をとめてしまう
今は 進む時ではない
じっと 自分を見つめる時だ
心の水を汲みだして 自分を育て
人々をうるおし 草木を育てよう
ライン

① 泥にまみれた水は 飲めない
古井戸には 鳥も采ない
井戸に埋れる人は 役に立たない

- ② 使わない井戸には 鮒ぐらいしか住まない
つるべがこわれて 水が上がらない
持てる才能も使わなければ
人々も 寄ってこない
- ③ 水は澄んでいるのに 人が汲み上げない
飲める水なのに 悲しいことだ
ものを見る目を持つ人があれば
これをみつけて 共に喜ぶ
- ④ 壊れた井戸をなおす 間違いはない
井戸の底の泉から 清く冷たい水が湧き
心正しければ 人々をうるおす
皆が井戸から 水を汲む
まごころを持つて ものごとにあたれば
どんな願いも 通る

アドバイス

心の中も定まらず
日頃の態度も はっきりしなければ
他人から誤解されるばかりだ
自分の中に閉じこもったまま
才能を持てあまし一人で孤立する
心を開いて 皆のことを考えよう



上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 火 輝く明るさ 二女

イメージ

湖の底に 火が見える
澄み渡る水を通して
きらめく炎が燃えている
水と火が争って
大きな変化が起こるだろう

託宣の言葉

盛りをすぎてものごとが変わる時に
まごころを持つていれば
願うことは 大いに通る
心正しければ 得るものがあり
悔いることはない

ジャッジメント

宇宙は規則正しく 循環し
時を刻んで 四季を生みだす
春がくれば 夏近く
秋になれば 冬も遠くはないように

人間の一生にも 春秋の時がある
古い世代は過ぎ去って

新しい人々を迎える 日も近い
年老いたものは いつかは去り
若ものたちに 道をゆずる
ものごとは 変化と共に進むのだ
春と秋 明と暗 火と水

さまざまな 対立と和合が
時を得て 新しい時代を作るのだ
人々は 大きな輪を描くように
古いものから新しいものへと 移り変わる
変化の時 それは宇宙の再生の時だ
老人も 若ものも

季節の流れを 祭るのだ
すべてが 新しく生まれ変わり
誕生の喜びに湧きかえる
大いなる 変革の時を祝おう

ライン

- ① 黄牛の皮に身を包む
真直ぐに従順に 時の来るのを待つ
- ② 変革の日は近い
準備をすすめてもいい時だ

とがめられることはない

- ③ 進めば凶 心正しくても危険が多い
三度話し合つて 意見が合えば
人々の信頼を得る 慎重に考えよう
人々に信じられ 悔いは残らない
進んで変革すれば いいことがある
- ⑤ 偉大な人は 自分を虎の如く変える
人々の信頼があれば 変革は成功する
賢人は 豹のように身を変える
愚かなものは ただ顔色を変える
変革はすんだ それ以上進めば 凶
心正しく その場にとどまろう

アドバイス

君は決断が早く 素朴な性格だ
思いたったら 黙ってはいられない
すぐ行動に移してしまう
積極的に ものごとを改善するには
それも決して 悪くない
しかし 革命を企てる前には
しっかりと 計画を練ることだ



上火 輝く明るさ 二女
下風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

木を積んで 火を燃やす
鼎（かなえ）の中で 煮えているものは
神への供物と 聖人への捧げものだ
固いものは柔らかくなり
鉛は金に変わって ものごとが完成する

託宣の言葉

願いが 大いに通る

ジャッジメント

青銅の鼎（かなえ）は 王権の印だ
悪霊を鎮め 神々に祈るために
古代の王は 鼎を 作らせた
美しい形と 不思議な紋様は
天地の 霊気を集めて
ものごとを 成就させる
鼎は その中でものを煮て人々を養い
賢者に捧げられる 食物を作る

薪から燃え上がる火が 正しければ
鼎の中の食物は 上手に煮えて
人々は長寿を保つ

古代の錬金術師たちは
かまどの火を 調整して
卑金属から 黄金を作り出したという
人間の体内でも 同じように
丹田に火を燃やして 気をめぐらし
新たな精神を 生み出したという
鼎こそ 永遠に続く生命の印
精神の再生を司るものだ
自分を清め 他人を養って
長寿の福を もたらすものだ

ライン

① 鼎の足を上に向ける
器をさかさまにして
悪いものを出すといひ
妾を持てば 長寿は保てない しかし
子どもが生まれれば 咎めはない
鼎に中身があれば 友がうらやむ
才能のあるものは 自分を守って
悪友に引きずられなければ

間違いはなく いいことがある

③ 鼎の耳がとれる
ものごとが うまく進まない
美味な雉肉も食べられない しかし
天地が和合して 雨が降り
悔やむことなく 幸運に恵まれる

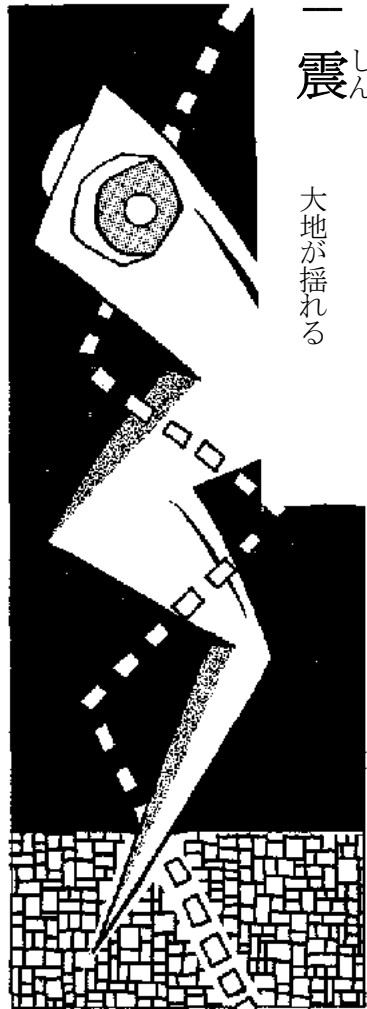
④ 鼎の足が折れる
賢者の食物がこぼれて
役目が果たせない 凶

⑤ 鼎に 黄金の耳と金環がある
心正しければ 得るものがある
鼎に 貴石の環がある

⑥ 素晴らしい幸運に恵まれ
願いごとは すべてかなう

アドバイス

君は火のように輝く才能と
自由で柔軟な心をもっている
すばらしいことを やりとげるだろう
しかし 自分の才に溺れて
人々への尊敬の念を失ってはいけない



上 雷 荒れ狂う力 長男
下 雷 荒れ狂う力 長男

イメージ

大地が揺れ動き
天に光が走る
地震か 雷か いや 竜が舞い昇るのだ
地底に潜む竜が 天上を駆ける時
人々は恐れ 自らを省みる

託宣の言葉

- その震動は 人々を驚かし
不安の渦に巻き込むが
この竜は 決して悪いものではない
それは ものを動かし 進め
新たな創造の力を生みだす鬼神だ
心が揺れて 不安になるのは
新しいものが 生まれるきざしだ
心の揺れを じつと見つめよう
身を慎んで 自分をふり返ろう
創造の神が 通り過ぎた後で
新たな力を得た人々は 大いに笑う
人間の小さなからだの中から
汲めども尽きない 力があらわれる時に
あわてふためいて 逃げまどえば
自分の力に つぶされるだけだ
神に祈り 心を静めて
湧き上がる力を しっかりと掴むのだ
- ライン
- ① 地面が揺れれば 人は驚くが
その後では 大いに笑う
恐れて警戒すれば 幸運に恵まれる
- ② 地面が揺れて 危険が迫る

願いごとが通る 地面が揺れれば
人は驚いて あたりを見まわすが
その後では 大いに笑う
雷は 百里四方に鳴り響くが
神に祈るものは 恐れることはない

ジャッジメント

大地の底に住む 竜神が
荒れ狂う力を あらわす時
空には稲妻が ひらめき
雷鳴がとどろいて これに答える

- 財産を失って 高い丘に避難するが
失ったものは 七日で戻る
- ③ 地面が揺れて 恐れおののく
誤ちを改めれば 災難をまぬがれる
- ④ 雷は鳴りそうで 鳴らず
地震は来そうで 来ない
願いごとが 思うように通らない
地面が大いに揺れて 危険が迫る
心を静め 落着いて行動すれば
大きな不幸には 見舞われない
地震を恐れて あたりを見まわす
そのまま進めば 凶
- ⑥ 隣家の被害を見て これに備えれば
凶といえども 間違いはない
隣人の文句を 気にすることはない

アドバイス

君は今 やる気が十分にあって
相手がかわらず 自分を押し通そうとする
情熱にまかせて 先ばかり急ぐより
自分の創造力を 見つめ直すのだ



上山 内にこもる静けさ 三男
下山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

険阻な山また山の間では
人は静かに止まって 瞑想にふける
天地の動きを 心を感じ
進むべき時には 進み
止まるべき時には 止まる

託宣の言葉

手足は動いても 背筋は動かない
からだは動いても 心は動かない
人が歩く庭に出ても 誰も見ない
自分に集中していれば 外は関係ない
そうしていれば 間違いはない

ジャッジメント

今は 歩を止める時
妙なる楽の音がひびき
美しい人々の影が動く
木陰には 鳥が飛び交い

川辺には 花が乱れ咲く

空中に高くそびえる城郭は
この世のものの姿ではない

瞑想の中に 開かれる風景は

自分のものでありながら 自分を越え

はるかかなたの 心の奥の

異次元の世界を 映しだす

外と内との二つの世界を

振子のように揺れ動き

お互いに そむくもの同士の間

間を結ぶのが 人の心だ

ある時は 力強く 外の世界に進み

ある時は 静かに 心の内にとどまる

二つの世界が調和して

一つの心で結ばれる時 宇宙は一体となり

どこにいても なにをしても

恐れることもなく 間違いもない

ライン

- ① 足が進まず 動き始めて止まる
心の正しさを保てば 間違いはない
- ② ふくらはぎが止まり 先に進めない
やむを得ず 人に従っていては

心から喜べない

③ 腰が動かず 背中に緊張感が走る
危険が多くて 心臓が止まりそうだと

人々に憎まれて そむかれる

④ 胴体が動かない 自分の身を守り
静かにしていれば 間違いはない

あごが動かない

⑤ 秩序を立てて 意見を述べ

言葉に気をつければ 後悔はしない

高貴な心で 自らをとどめる

⑥ 心静かに 有終の美を飾ろう

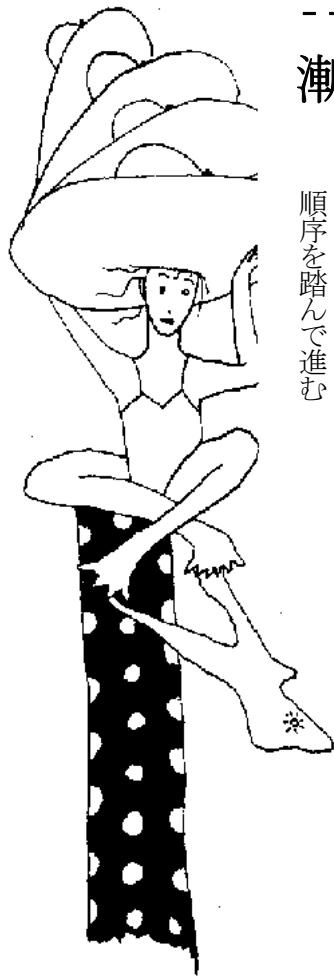
ものごとには 終わりがある

人には とどまる時がある

とどまれば 幸運に恵まれる

アドバイス

過労で いらだっている時は
なにをやっても うまくいかない
とまるべき時には 止まって
静かに 自分をふり返ろう
限界を知って 欲を出さないことだ



上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

山の上に 高く木がそびえ
雁(がん)が水辺を 静かに舞う
山上の木は 少しずつ のびる
水が大地に しみわたるように
ゆつくりと 誇り高く 進もう

託宣の言葉

態度は あくまで やわらかく
あせらずに ことを運ぼう
二人が力を合わせて 生きるために
お互いの愛と心を育てよう
他人の気持を察することも できないで
人と共に暮らすことはできない
しつかりと 自分を見つめることだ
そして 自尊心を持って 進むことだ
山の高みにそびえる 大木のように
高貴な心を育てあげれば
いつか必ず 得るものがある
乾いた大地に 水がしみ通り
あらゆるものが やがては結ばれて
心正しい人に 幸いをもたらす

ライン

① 雁が 岸边に おずおずと近づく
若いものには 危険が多い しかし
しかられても 大事に至らない
② 雁が 静かに 岩に近づく
足場が固いから ゆつくりと
飲んだり 食べたりして 楽しもう
いいことがある

娘が男と結ばれるのにいい
心正しければ 得るものがある

ジャッジメント

ものごとには すべて 順がある
娘が結婚の支度をするようなものだ
女と男が結ばれるには
二人の出会いにはじまって
婚約から 結婚まで
それぞれのきまりと 手続きがある
心は嵐のように はやっても

③ 雁が 陸地の空を舞う
道を失って 夫は帰らず
妻は その子を 育てない 凶
ただし 敵から身を守るにはいい
④ 高い木は 雁のとまる場所ではない
不安は次第に高まるが
確かな場所が見つかれば 間違いはない
雁が 高い丘を行く
⑤ 孤高な雁は 群からはずれ
妻は三年経っても子を生まない しかし
最後には 幸運に恵まれる
雁が はるかな雲間を飛び
天に昇ったまま 帰らない
志高ければ 幸いがある

アドバイス

君はやさしく しかも心は強い人だ
なにことも 今の調子で
あわてずに 進めば間違いはない
どんな境遇にあっても
心の気高さを 忘れないようにしましょう

上 雷 荒れ狂う力 長男
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

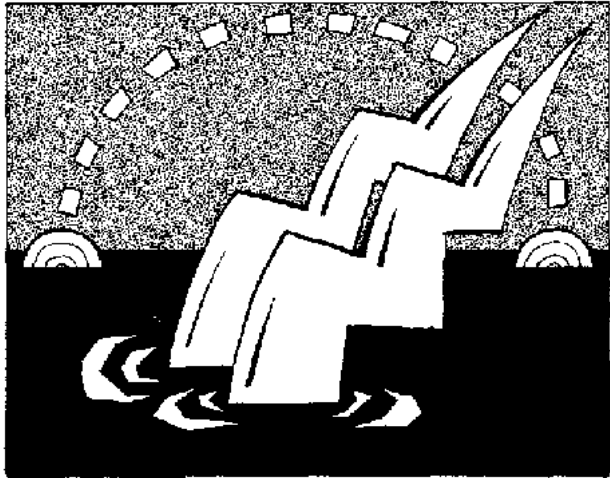
湖上に雷鳴がとどろけば
水面は荒れて 暗く波立ち
稲妻が水にきらめく
陰と陽とは 相交わり
小さな娘が嫁に行く

託宣の言葉

先に進めば 悪いことがある
なにごとも 得ることはない

ジャッジメント

荒れ狂う力に誘われて
小娘が嫁に行く
すべて男女が交わらなければ
新しい進歩はない しかし
結婚は 娘にとって一度死ぬことだ
君に その覚悟があるだろうか
心に備えもなく 前に進めば



たとえ 陰陽は交わっても
その仲は 長く続かない
君に 愛情があるだろうか
ただ 相手の情熱に誘われて
年上の男性にひきずられても
後に残るのは 後悔だけ
自然な愛情が 心から
生まれてくるのを 待つべきだ
愛とはなにかも よくわからずに
自から死をあせってはいけない
愛することは 身を棄てることだ
本当の愛があつてこそ
結ばれた後に 再生がくる
その見通しも ないのに
ただ 身を棄てても 得るところはない

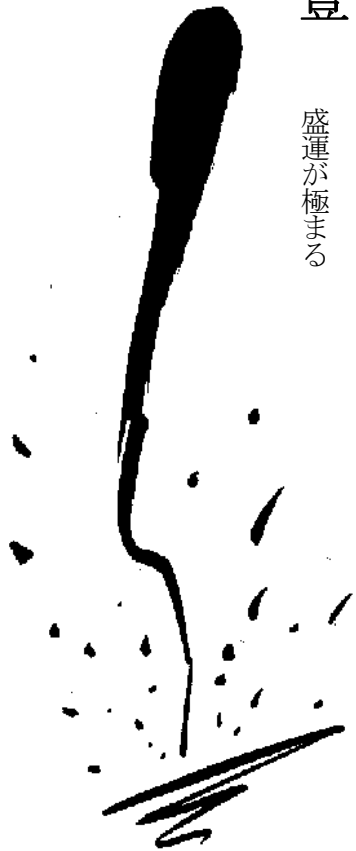
ライン

- ① 既婚の人と 結ばれる
片足をひきずって
結ばれるようなものだ しかし
つましくふるまえば 進んでもいい
片目の人でも 見ることができる
たとえ一人で 淋しくても

- ③ 心正しく 強い意志をもって生きよう
結ばれるまで 長いこと待つが
家に戻って 愛人として身を立てる
心清く 婚期をのがす
④ しばらく待てば その時はくる
王が娘を 嫁がせる
ぬいとりのある 王女の衣裳は
侍女のそれより つつましいが
満月のような 気高さがあれば
いいことがある
⑥ 嫁ぐ日の 手箱の中には なにもない
犠牲の羊を割いても 血が出ない
いいことは なにもない

アドバイス

素朴で 心に悪意はないが
そのまま 進めば障害が多い
自分一人は 正しくても
世の中は それだけでは生きられない
もつと 相手を知ろう
そして 自分自身を 育てるのだ



上 雷 荒れ狂う力 長男
下 火 輝く明るさ 二女

イメージ

稲妻が一瞬 きらめいて
雷鳴と共に襲う時には
空中に火が散り
エネルギーが 満ち溢れる
明確な決断を 下す時だ

託宣の言葉

ジャッジメント

願いごとが通る 王者の威厳を保つ
真昼の太陽のようであれば
心配することはない

誰もが 偉大で 豊かなわけではない
生まれついた 心の広さと
自ずと備わった 威厳を持つものが
天の力と共感した時に
その偉大さを 発揮する
空中を電流が走り抜け

髪の毛がさかだち 青白い光を放つ時
王者はその風格を はじめて世に示す
心に愁(うれ)いもなく 悲しみもなく
解放された 自由な魂を持つもののみが
真昼の太陽のように 輝くのだ
地上に存在する あらゆるものを照らし
雷電のように 力強く 裁く時だ
しかし 月は満ちれば欠け
太陽も 午後には影を増す
刻々と 天地が動き 姿を変えるように
人の世も形を変え 運命も移り変わる
盛運の光を放つのは わずか一時(ひととき)
時が過ぎれば 危険が迫る
すみやかに 悪を排除しよう

ライン

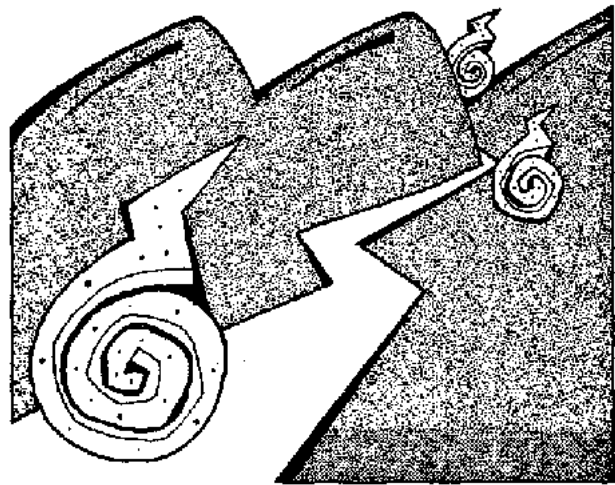
① 運命の人に出合って
十日の間 共に暮らしても間違いはない
二人の意気が合って 大切にされる
② すだれを降ろしたように暗く
日中に 北斗七星が見える
そのまま進めば 疑われるだけだが
まごころを尽くして

③ 説得すれば 幸運に恵まれる
たれ幕を降ろしたように暗く
日中に 名もない星まで見える
右腕を折られたように
力を発揮できないが 間違いはない
すだれを降ろしたように 暗く
日中に 北斗七星を見る
同じ心を持つ 主人に出合えば
幸運に恵まれる

⑤ 愚かな主人が へり下り
賢人を招けば 喜びと名誉を受ける
暗い中にも 幸運が授かる
屋根とすだれで家を隠す
戸口からのぞいても なにも見えない
三年経つても 戸口を開けず
一人 家中に孤立する 凶

アドバイス

君は ものごとがよく見え
強い力に恵まれた人だ
チャンスを逃さず 行動しよう



上火 輝く明るさ 二女
下山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

はるかかなたの山々に
遠く 近く 燃え上がる火が見える
旅人は 山焼きの火のように
風にまかせて 異邦を行く
一人で生きる淋しさに堪えよう

託宣の言葉

小さいことなら 願いが通る
心正しく旅すれば 幸運に恵まれる

ジャッジメント

火が空をこがして 燃え上がるように
心は はるかに遠い 宇宙の果てに飛ぶ
異邦を旅する人の心は
大空を越えて 故郷を思う
人の生きる道は
見知らぬ世界の 旅と同じだ
美しい風景や 楽しい友を見出して

共に喜び 語り合うこともあるが

嵐の夜に宿のあかりも 見つからないで
暗い森を一人さまようこともある
さまざまな人に出会い

次々に 新しいものを見ても

別れは近く 時は過ぎ去る

人それぞれに 別の見方があるように

同じ心を持つ人はいない

同じ考えを持つ人もなく

同じ道を行く人もいない

自分自身を頼りにしないで

どこに安住の地を求めようというのだ

夜空に 光り輝く星のように

人は皆 無限に続く大宇宙の

遍歴の旅を続ける異邦人だ

ライン

① 小さなことを気にするものは

旅に出て 自ら不運を招く

② 旅人が宿についても

懷中に旅費が十分あり

忠実な従者を見出せば 安心だ

心豊かなら 人に好かれる

③ 泊った宿が火事になり

従者が忠実さを失う 危険が多い

どこが悪いのか 自らを省みる時だ

④ 旅人が 身を寄せる場を見つけ

自分を守る武器も手に入るが

異国になじまず 警戒心を解かない

心を許して落着ける所ではない

⑤ 雉を射て 最初の矢を失うが

その雉を捧げて 人に仕え

最後には 名誉ある地位につくだろう

飛ぶ鳥が 巣を焼かれる

旅人は 最初は笑うが

やがては 嘆き悲しむことになる

国境で牛に逃げられ 頼るものもない

旅人には 異邦人である自覚が必要だ

アドバイス

人々の間で 明るくふるまっても
君は一人自分の道を行く 孤高な人だ
自分を見つめ 本当の自己を見出そう
人は皆 この世界での旅人なのだ



上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 風 木 柔軟なやさしさ 長女

イメージ

風が心に しみ入るように
大木が 大地に根を張るように
柔軟な態度と やさしい思いは
心の隅々にまで 入りこみ
宇宙の秩序を 人々に伝える

託宣の言葉

小さな願いは 通る
進んで行動すれば 得るものがある
偉い人の意見を聞くといい

ジャッジメント

風はどこから来て どこへ行くのだろう
形もなく 姿も見えないのに
稲の穂は 風によつて その実を結び
松の実も 風に乗って 遠くへ運ばれる
進んだり 退いたり
西へ東へ 山を越え 海を渡つて
風の行かないところはない

強く 弱く 高く 低く

風の吹かない時はない

時にはやさしく 時には厳しく

風は ものの形を包み

人々の心に しみわたる

今 君の小さな願いを 幸運に乗せて

風が 運んでくれるだろう

星が流れ 時は過ぎ去つても

風が動きをとめることは ないように

悠久の自然は 動きをとめない

山々の間を 白雲が流れ

四季の到来を告げ 天の動きを語る

風の声を 聞くことのできる人は

運命の流れを 知る人だ

ライン

① 進んだり 退いたり

心が迷つて 定まらない時には

男らしい勇気が 必要だ

② 寝台から降りて 頭を下げる

行者や巫女を招いて 天に祈れば

幸運に恵まれ 間違いはない

③ やたらに 頭を下げて

アドバイス

風のように心やさしく

柔軟な態度をとれば

ものごとが うまくいかないはずはないが

頭を下げるだけでは 人にあなどられる

鋭い観察と決断も 必要だ

④ へり下つて見せても いいことはない

後悔することはない

狩に出れば 三種の獲物が手に入る

心正しければ 悔いることはない

なにをしても うまくいく

初めは悪くても 終わりはいい

ものごとを始めるのに

先立つこと三日 後れること三日

注意深くふるまえば 幸運に恵まれる

⑥ 寝台から降りて 頭を下げる

鋭い斧を失つて 決断に迷う

高い地位につきながら

心が定まらないようでは

いいはずがない

上 湖 澄みわたる喜び 三女
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

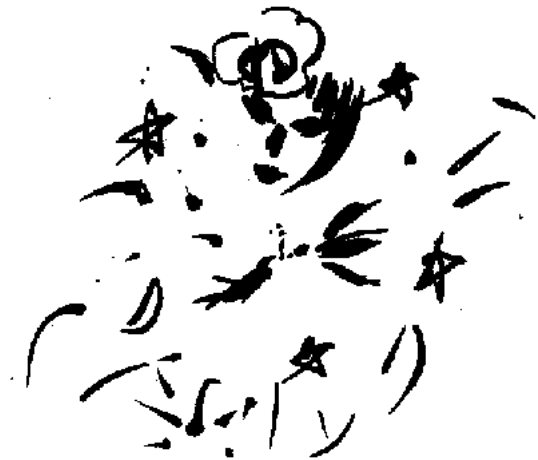
心に疑いを持たないものは
澄んだ湖のように 美しい
かわいい娘は 恐れを知らず
友と親しみ 言葉を交す
明るい心から 喜びが生まれる

託宣の言葉

願いが通る
心正しければ 得るものがある

ジャッジメント

澄んだ湖面に 白雲が流れ
コバルト色の空が 静かに映る
ひっそりと 山あいに光る湖は
太古の素朴さを たたえている
泉の水は こんこんと湧きだして
とどまることはない
水は流れて 移り変わる しかし



湖は いつも姿を変えずに

永遠の若さを保っている

輝く陽の光を 反射して

宝石のように きらめいている

人に荒されたことのない 山奥の湖は

疑うことを知らない 小さな娘の心だ

無意識のうちに 湧き上がる喜びを

無邪気な姿で まき散らしている

湖のように 澄んだ心を忘れずに

親しい友と 話し合えば

喜びと喜びが 重なって

笑いがひびき 若さが溢れる

心を開いて 学びあえば

太古の知恵が よみがえり

二つの湖が 地底の水路で結ばれるように

親しい友と 心の奥で結び合う時に

人は本当に生きることの喜びを知るのだ

ライン

① 一人で静かに 言葉もなく

心の平和の中に 喜びを求めれば

人に疑われることなく 幸運に恵まれる

② まごころをもって

人と喜びを分かちあうものは

幸運に恵まれ 後悔することもない

③ 心の喜びに溢れるのではなく

世俗の喜びに溺れれば 凶

④ 喜びを秤(はかり)にかけて 迷うようでは

心の平和は得られない

間違いを正せば 真の喜びに出会う

⑤ 強い人を喜ばせようと 人々が集まる

彼らに まごころを見せれば

奪いとられるだけだ

自信過剰なものは 危険に陥る

⑥ 人を誘って 喜ぶ

君の心が定まらなければ

吉凶の判断は つかない

アドバイス

小さな娘のように かわいらしく

澄んだ心に 喜びが溢れる

今の気持を大事にしよう

親しい友と語って 心を育てるのだ

上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

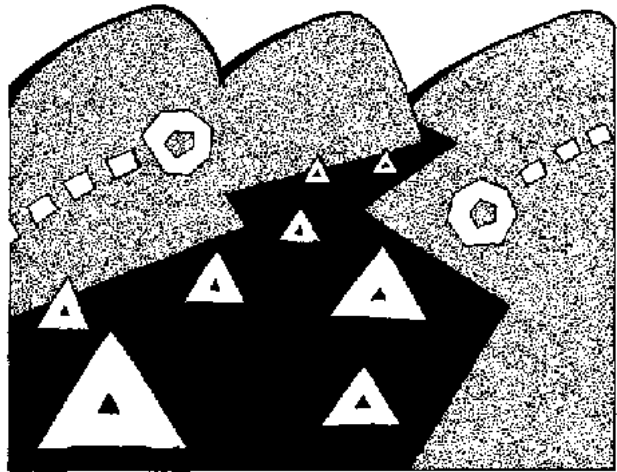
冷たい水面に 春風が吹き
張りつめた氷が溶けて 四方に散る
風が吹いて 水路が開くように
かたくなな態度を 改めて
心を開き 人々を招こう

託宣の言葉

願いがかなう 祭りごとをして
先祖の霊を招き 心から祈ろう
大河を渡る決心をする時だ
心正しければ 得るものがある

ジャッジメント

水上に 割れた氷が浮かんて
あるいは散り あるいは集まる
そよ風が 水にしみわたり
やさしい春の心を 告げる
冬ごもりの時は終わった



水路は開かれ 交易が始まる
舟を浮かべて 旅立つ時だ
皆で心一つにして
未知の世界に 挑戦する日が来た
かたくなな心を解いて 人々を招き
盛大な祭りを開こう
遠くに散った友を集め
旅先の無事を祈るのだ
人々の心が四方に散れば
自分の心も まとまらない
警戒を好き 心から天に祈れば
散らばった人々も 再び集まり
落着かない心も定まって
大事を成就することができる

ライン

- ① 散ろうとするものを
力強い馬を走らせて 連れ戻す
運がよく まだ大事には至らない
人々が散る時に
- ② 自分の身を寄せる場所を求めれば
後悔することはない
- ③ 私欲を棄てれば 悔いはない

- ④ 大望を抱くものは 自分を棄てよう
私的な関係を絶ち 自立すれば
大きな幸運に恵まれる
人との関係を絶って一人になれば
さらに多くの人が集まるということは
普通の人には 思い及ばない
苦しい時に大声で叫べば
汗と共に 困難が散る
大声で命令し 富を散らせば
人々の離散を防いで 後悔に至らない
血を散らして 危険を避ける
困難な場から 遠くに身を避ければ
間違いはない
- ⑤
- ⑥

アドバイス

心やさしく ふるまうのはいいが
君の心は落ち着かず 警戒心が強すぎる
自分を信じて 力強く生きよう
自分自身をよく知ってこそ
人々のために 身を棄てることができ
まわりに人が集まるのだ

上 水 底知れぬ深さ 二男
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

湖の水が溢れて 草木が沈み
底なし沼のように
岸辺も明らかではない
ものごとには それぞれのきまりがある
限度を越えれば 危険が迫る

託宣の言葉

願うことは通る しかし
ものごとの限度を越えてはいけない

ジャッジメント

岸辺の葦に足を踏み入れれば
ずるずると 水にひきこまれる
水量の増した湖沼は 危険だ
無限に広がる宇宙にも
どこかで とどまる場所があり
登りきった太陽も やがて傾き
一日の時を刻むのだ



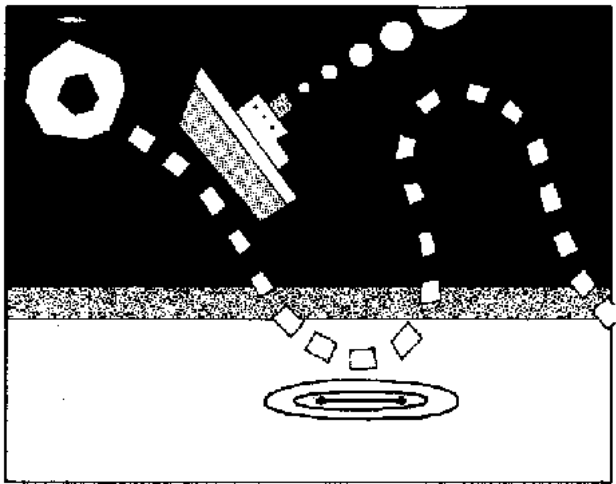
四季が 正しく過ぎ去るように
ものの動きには 限りがある
運命の流れにも きまりがあり
どんな悪運も いつかはとまる しかし
幸運にも 限りはある
竹に節があるように
それぞれの人が それぞれの場にあつて
自分の分を守る時
争いもやみ 願うことがかなう
自分の時を読み 自分の場を知ることだ
人の欲望には 限りがない
節度を守って 出すぎてはいけない
水は絶え間なく 流れるが
これを容れる器には 限りがある
自分の器をよく見つめ
自ら足ることを知るものこそ
この世を十分に生きるものだ

ライン

- ① 部屋の扉を開かず 中庭から出ない
世の中に出るのに 慎重であれば
間違いはない
- ② 門から外に出ない 凶

アドバイス

- ⑥ 苦勞して 節度をやつと守るのでは
心正しくても 悪いことがある
これを改めれば 後悔することはない
- ⑤ 自らを節するものは
人もこれに従う
進んで行動すれば
人々に 喜んで迎えられる
- ④ 無理なく 節度を守る
願うことが かなう
自らを節するものは
人もこれに従う
- ③ 自分の限界を越えれば 苦勞が多い
自ら招いた不幸で
人を責めることはできない
無理なく 節度を守る
願うことが かなう
- ② 出るべき時を失って
出るに出来ない状態になる
節度も度を越してはよくない
自分の限界を越えれば 苦勞が多い
自ら招いた不幸で
人を責めることはできない
無理なく 節度を守る
願うことが かなう
- ① なにをやっても楽しい時だが
君はまだ 自分の限度を知らない
運がいいからと調子に乗り
分に過ぎたことを望んでも 通らない



上 風 木 柔軟なやさしさ 長女
下 湖 澄みわたる喜び 三女

イメージ

湖上に 舟を浮かべれば
そよ風を受けて 流れるように進む
無心に心を開き 風にまかせれば
宇宙の果てまで 行きつける
人の生きる道（タオ）は 尽きることがない

託宣の言葉

豚と魚を供えれば 幸運に恵まれる
大河を渡れば 得るものがある
心正しければ すべてよし

ジャッジメント

鼎に盛って供えられる 豚と魚は
貧しい人々の供儀の品だ
まことの心を知るものには
天もこれに応じて 幸運を授ける
心に思うことのない人は
風に乗る 四方 八方に自由自在
どこにでも行くことができる

③ 二人で分けあえば 心が通じる 吉
進んだり 退いたり
泣いたり 笑ったり

④ 相手があれば 心はさまざまに揺れる
満月も近く 相手を失った馬は
一人道を進む 間違いはない

⑤ 心の誠に従って 一人正しく道を行く
まごころと共に 人々と手を結ぶ
相手ができれば 自分の気持が揺れるが
まごころに従えば 間違いはない

⑥ 鶏がときを作り 声が天までとどく
心正しくても 凶
飛べない鶏が天まで昇ろうとして
ただ口先だけで鳴いても 心は通じない

アドバイス

君は 風のように柔軟な態度で
いつも喜びに満ちている
いつも そのように ふるまえば
まごころは 相手に通じる
君の誠意と努力が実を結ぶ時だ

ライン

① 盲目的に 人を信じてはいけない
相手の心に誠があれば いいことがある
鶴がものかげで鳴けば
その子も 声を合わせる
自分の好むものは 人も好きなものだ

木舟のように 心の中をくりぬいて
心を空にすれば 水に浮かべても沈まない
どんな大河も 渡り切ることができる
人々のために 身を棄て
喜んで 天の摂理に従える人は
なにをしても 心の正しさを失わない
一人よがりの考えは やめることだ
鳥が卵の殻を破って 誕生し
空高く舞い上がるように
自分の殻を破って すべてを棄て
身を軽くして 風の流れに乗れば
まごころが天に通じて
永遠の真理を 知ることができる
心正しく生きることは
時の流れを信じ 人を信じ
宇宙を心として 自由に飛ぶことだ



上 雷 荒れ狂う力 長男
下 山 内にこもる静けさ 三男

イメージ

山の上に 雷鳴がとどろき
あたりにこだまして ひびきわたる
天のお告げを 身を低くして聞く
すべての行為を慎む時だが
慎みすぎて 消極的であってはいけない

託宣の言葉

願うことは通る
心正しければ 得るものがある
小さいことならいいが
大きいことは 成就しない
鳥が飛び過ぎながら 一声叫ぶ
上に昇れば悪く 下に降りればいい
飛びすぎなければ すばらしいことがある

ジャッジメント

鳥のように 翼を広げ
大空にはばたくのもいい しかし

あまり 飛び過ぎてはいけない
羽根をもつ鳥も

日暮れには 巢に帰る
山に雷鳴のとどろく時は
からだをかがめて 静かに身を守ろう
昇ることだけに気をとられ
降りることを知らないものは
雷に打たれて その身を亡ぼす
言葉少なく 出過ぎないことだ
姿勢を低くして 華美な行動を慎もう
しかし 自分の力でやれることまで
やめてはいけない
慎むことは あきらめることではない
次にくるチャンスに備えて
小さなことを 整える時だ
大事を決行する 時ではない

ライン

① 力不足なものが 鳥のように飛ぶ
昇るばかりでは 災難に遭う
② 祖母を通り過ぎて 祖父に会い
主人を通りこして 従者に会う
進みすぎて 目的を果せないが

間違ではない

③ 進もうとして 人に邪魔され
半殺しの目に遇う 凶
注意しすぎるぐらいで ちょうどいい
行き過ぎなければ 間違いはない
人と出会っても 身を避けよう
進んで動けば危険 必ず悪いことがある
自分の身を正しく守り 動かないことだ
黒雲が空を覆うが 雨にはならない
隠れているものに 白羽の矢を立てる
大事を成就するのに 賢人の助けがいる
邪魔するものもなく
鳥が翼を広げて 天に昇りつめれば
身の置きどころがない
自ら招いた 災難だ 誰のせいでもない

アドバイス

気ばかりあせって 心は動かない
上ばかりを見ずに 落着いて行動しよう
大きな希望を持つのはいいが
今はへり下って 実力をつける時だ



上 水 底知れぬ深さ 二男
下 火 輝く明るさ 二女

イメージ

火と水が 交わって
混沌の中から 秩序が生まれる
造化の神の 仕事が終わる
すべてが完成した時こそ
気を許さずに 自分を守ろう

託宣の言葉

小さな願いは 通る
心正しければ 得るものがある
初めはよくても 終わりに乱れる

ジャッジメント

火の上に湯わかしを かけて
水を煮たてれば 蒸気が上がる
天地に気が満ちて ものごとが完成する
水がこぼれれば 火は消え
火が強すぎれば 水は蒸発する
ものごとが 最後まで行きつけば

あらゆる動きが 止まって
すべては終わる
燃えつきた火 消え去った水
後に なにが残るだろうか
これ以上 どこに進み
なにをすれば いいのだろうか
文化が進んで 爛熟すれば
どこかに 退廃の気配が見える
一つの時代が 終わり
一つの世紀が 過ぎて
あらゆるものが それぞれの場にあつて
満ち足りて 気が緩む
太陽も昇りきれば 後は沈むだけだ
完成の時こそ 人は気を配り
慎重に ものごとを進めるべきだ

ライン

- ① 河を渡ろうとする車の輪を止める
狐が泳ぐのに 重い尾をかかげるが
油断して 尾が水に濡れる
ものごとを成就するには
慎重であれば 間違いはない
② 女性が 乗物の覆いを失うが

アドバイス

- ⑥ 狐が河を渡って 首まで溺れる 危険！
追うことはない 七日すれば戻る
③ 三年かかって 敵を討つ
愚かなものを 使つてはいけない
④ 河を渡るのに 舟に穴があく
ぼろ布を用意して 穴をふさぎ
一日中警戒を怠れない
⑤ 東隣りの家では 牛を殺して
盛大な祭りごとをするが
西隣りの家の 素朴な祭りに及ばない
高位にあつても おごらずに
まごころを忘れなければ
大きな幸運に恵まれる
- 心の底では ものごとがよく見えて
なんでもよくわかつていくくせに
表面では なにも知らないふりをする
君は世慣れた 立派なおとなだが
そのまま進めば 先にのびられない
素朴な初心を 忘れてはいけない

上火 輝く明るさ 二女
下水 底知れぬ深さ 二男

イメージ

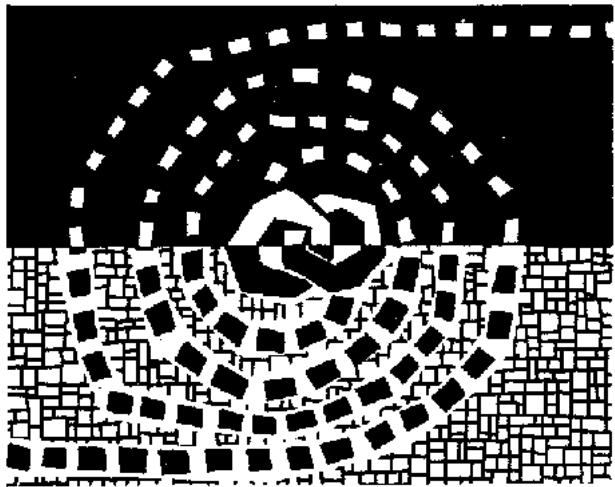
形あるものは 壊れ
再び 新しい形が生まれる
人の世は 生滅を繰り返す
宇宙は 終わりなく 循環する
新生の日の 夜明けは近い

託宣の言葉

願いごとが 通る
小狐が尾をかがげて 河を渡ろうとして
もう一步のところで 尾を水にとられる
なにことも成就できず 得るものはない

ジャッジメント

昇るべき火は 上に
降りるべき水は 下に
それぞれの性質に沿って 場を守る
しかし 上と下とは交わらず
天と地とも和合しない



子狐は もう一步の所で
重い尾を水に濡らして
河を渡り切ることができない
あと一息で完成するものが
壊れてしまう

すべては新しく始めるより他はない
日が沈み ものの形も夕闇に消える
月もなく 星もない
暗黒の夜が すべてを包む
地上の生物は 声もなく
深い眠りにつく

今は なにもできない
宇宙が 静かに 回転し
混沌の中に 自己が目覚めて
東の空に 曙光の最初の一矢が輝くまで
ただ 休息の中で 再生の日を待とう
落着いて 身辺を整理して
新しい日を迎えるのだ

ライン

① 狐が河を渡ろうとしても
重い尾を 水に濡らして果たせない
身の程をわきまえないければ 恥をかく

② 河を渡る車の輪を止める

心正しければ 幸運に恵まれる
まだ準備ができていない

③ そのまま 進めば 凶 しかし
大河を渡ることば できる

④ 心正しければ 後悔することはない
氣力を奮い起こして 敵を討ち
三年努力すれば ことは成就する

⑤ 心正しければ 幸運に恵まれ
後悔することはない
まごころを持つて光を放つ人は

⑥ 最後には 福を授かる
酒を楽しみ 心に余裕を持つて
運命の流れに 身をまかせよう しかし
酒色に溺れるなら すべてを失う

アドバイス

輝くように明るい君も 運命には勝てない
今は ものごとが移り変わる時だ
これまでのように 進めなくても
落着いて なりゆきにまかせるのだ

坤 (地) ䷁	艮 (山) ䷳	坎 (水) ䷜	巽 (風) ䷸	震 (雷) ䷲	離 (火) ䷝	兌 (澤) ䷹	乾 (天) ䷀	上卦 下卦
地天泰 ䷊ 11	山天大畜 ䷙ 26	水天需 ䷄ 5	風天小畜 ䷈ 9	雷天大壯 ䷡ 34	火天大有 ䷍ 14	澤天夬 ䷪ 43	乾為天 ䷀ 1	乾(天) ䷀
地澤臨 ䷒ 19	山澤損 ䷨ 41	水澤節 ䷻ 60	風澤中孚 ䷼ 61	雷澤歸妹 ䷵ 54	火澤睽 ䷥ 38	兌為澤 ䷹ 58	天澤履 ䷉ 10	兌(澤) ䷹
地火明夷 ䷣ 36	山火賁 ䷖ 22	水火既濟 ䷾ 63	風火家人 ䷤ 37	雷火豐 ䷶ 55	離為火 ䷝ 30	澤火革 ䷰ 49	天火同人 ䷌ 13	離(火) ䷝
地雷復 ䷗ 24	山雷頤 ䷚ 27	水雷屯 ䷂ 3	風雷益 ䷩ 42	震為雷 ䷲ 51	火雷噬嗑 ䷔ 21	澤雷隨 ䷐ 17	天雷无妄 ䷘ 25	震(雷) ䷲
地風升 ䷭ 46	山風蠱 ䷑ 18	水風井 ䷯ 48	巽為風 ䷸ 57	雷風恆 ䷟ 32	火風鼎 ䷱ 50	澤風大過 ䷛ 28	天風姤 ䷫ 44	巽(風) ䷸
地水師 ䷆ 7	山水蒙 ䷃ 4	坎為水 ䷜ 29	風水渙 ䷺ 59	雷水解 ䷧ 40	火水未濟 ䷿ 64	澤水困 ䷮ 47	天水訟 ䷅ 6	坎(水) ䷜
地山謙 ䷎ 15	艮為山 ䷳ 52	水山蹇 ䷦ 39	風山漸 ䷴ 53	雷山小過 ䷽ 60	火山旅 ䷷ 56	澤山咸 ䷞ 31	天山遯 ䷠ 33	艮(山) ䷳
坤為地 ䷁ 2	山地剝 ䷖ 23	水地比 ䷇ 8	風地觀 ䷓ 20	雷地豫 ䷏ 16	火地晉 ䷢ 35	澤地萃 ䷬ 45	天地否 ䷋ 12	坤(地) ䷁